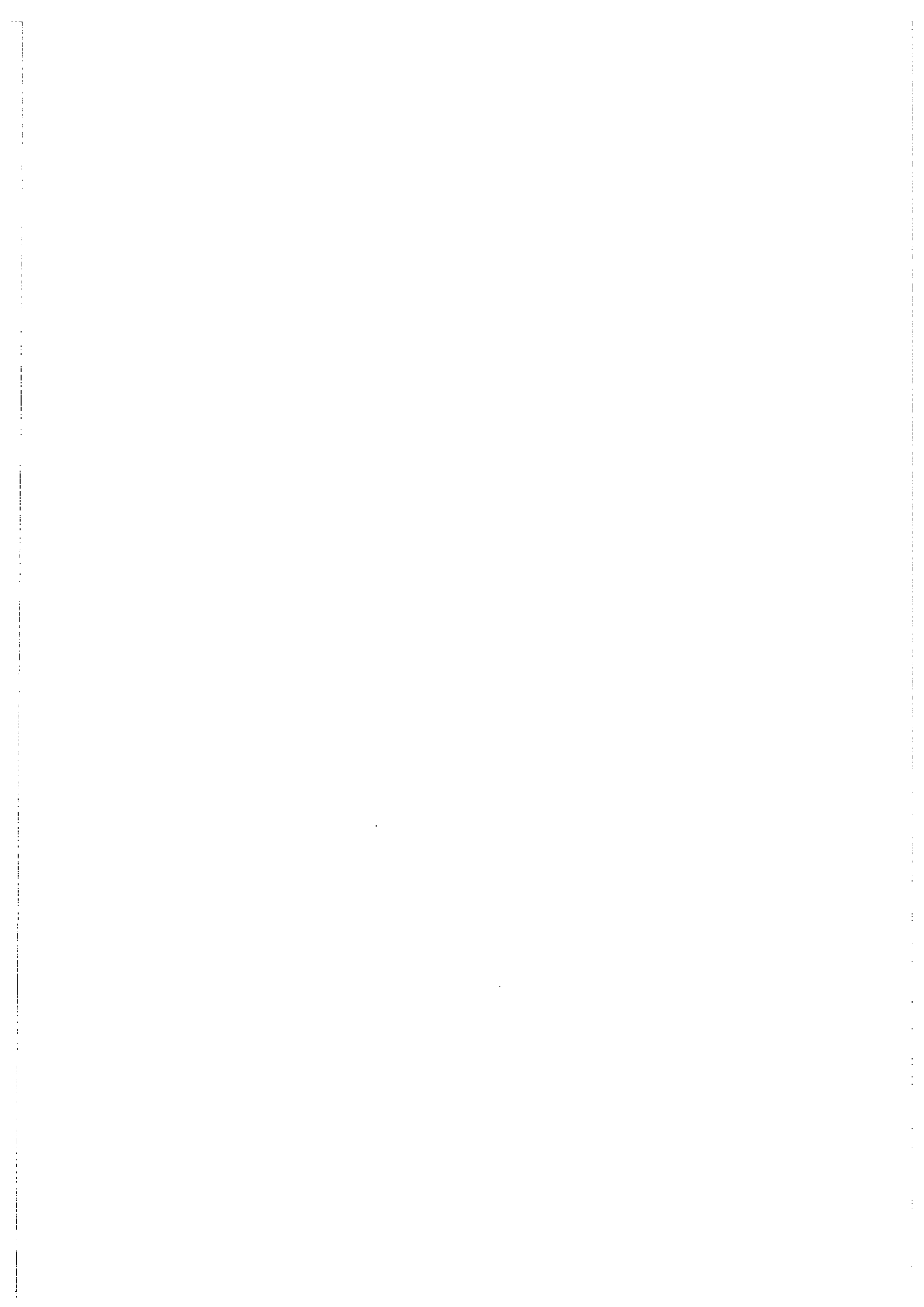


平成八年三月 第四集

大阪商業大学商業史研究所資料目錄



## 凡 例

- 一 本目録は「大阪商業大学商業史研究所資料目録」第四集として大阪京都油問屋文書・墨屋儀助文書・増井家文書・吉野家文書・京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書・梶野家文書を収めた。
- 一 史料は内容・性格に応じて大・中・小項目に分類した。各項目の配列は概ね年代順にし、年代末群については、年代が明白な史料群のあとに配列した。
- 一 目録の記載欄は原則として、(一)表題、(二)作成者または差出人、(三)宛名、(四)作成年月日、(五)数量、(六)番号の順とした。
- 一 表題は原題のある分についてはこれを採り、原題の無い史料あるいは一札・覚等のように内容のわかりにくい史料には適宜仮名し「」を付した。なお、変体・異体・略字などはなるべく常用漢字に改めた。
- 一 作成者または差出人および宛名が二名以上の場合は、二名の他何名と記入した。
- 一 作成者・差出人・宛名を推定した時には「」を付した。
- 一 宛名には「宛」を表示した。
- 一 作成年代は年月日・干支(干支については特別な場合を除き省略した)から適当に採用した。また推定年代には「」を付した。
- 一 表題などで誤字や断定できない場合等は筆写要領に従った。
- 一 巻末に簡単な解題をつけた。

# 目次

凡例

〔大阪京都油問屋文書目録〕

目録 ..... 三

〔墨屋儀助文書目録〕

分類項目表 ..... 七

目録 ..... 九

〔増井家文書目録〕

分類項目表 ..... 一五

目録 ..... 一七

〔吉野屋文書目録〕

分類項目表 ..... 二五

目録 ..... 二七

〔京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書目録〕

分類項目表 ..... 四四

目録 ..... 四四

〔梶野家文書目録〕

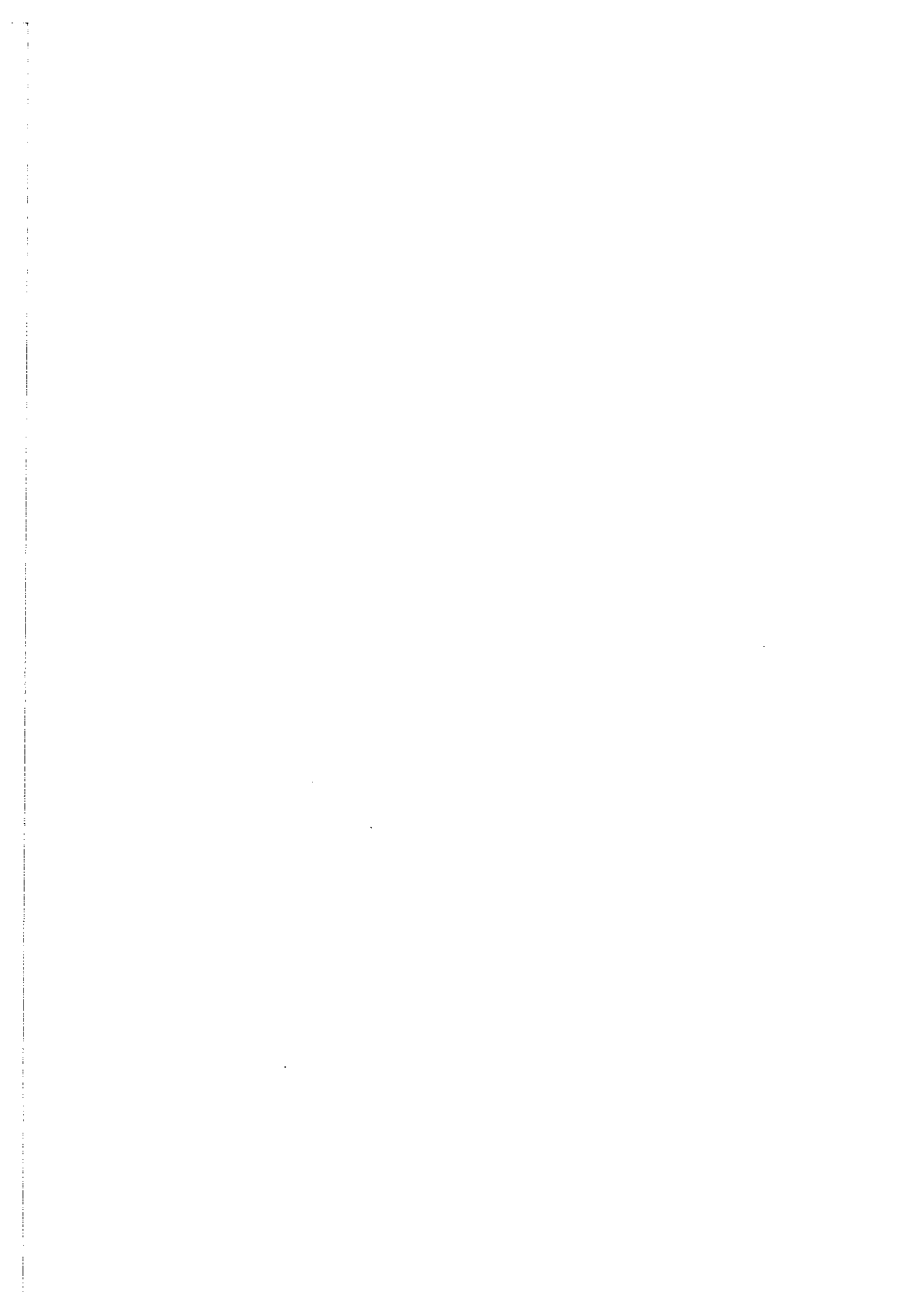
分類項目表 ..... 五五

目録 ..... 六六

解題 ..... 七五

写真 ..... 九

大阪京都油問屋文書目錄



# 大阪京都油問屋文書目録

## 油

油屋願書之写 延享元年

一冊

四

十ヶ年油稼高写 八文字屋長兵衛 寛政元年  
安政八年

一冊

三

大坂御蔵屋敷様へ大坂種物問屋并絞り油屋中  
御両国菜種之義奉願上願書写 磯上茂助御一統  
宛 文政六年三月二一日

一冊

八

申合書 絞油屋中 安政五年五月

一冊

五

初相場 芝原商祐 明治二三年一月四日

一枚

九

## 菜種

菜種買口願御請書写 日野屋庄左衛門 安永七  
年八月四日

一冊

七

菜種買口之御請書写 日野屋庄左衛門他 御奉  
行宛 安永八年正月二二日

一冊

六

長嶋御産物菜種取極規定書 慶応二年一月

一冊

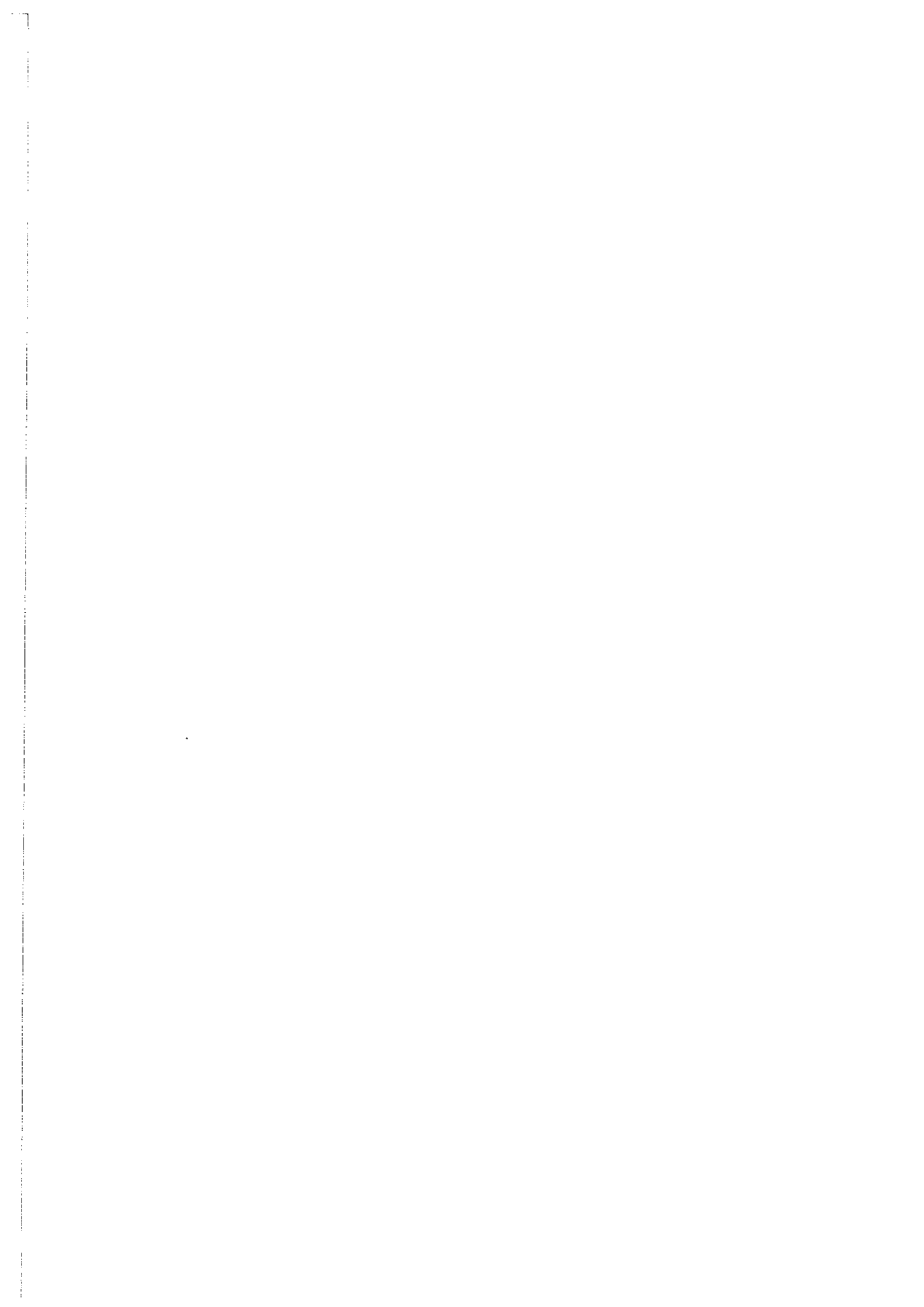
二

## 相場

水油仕切相場

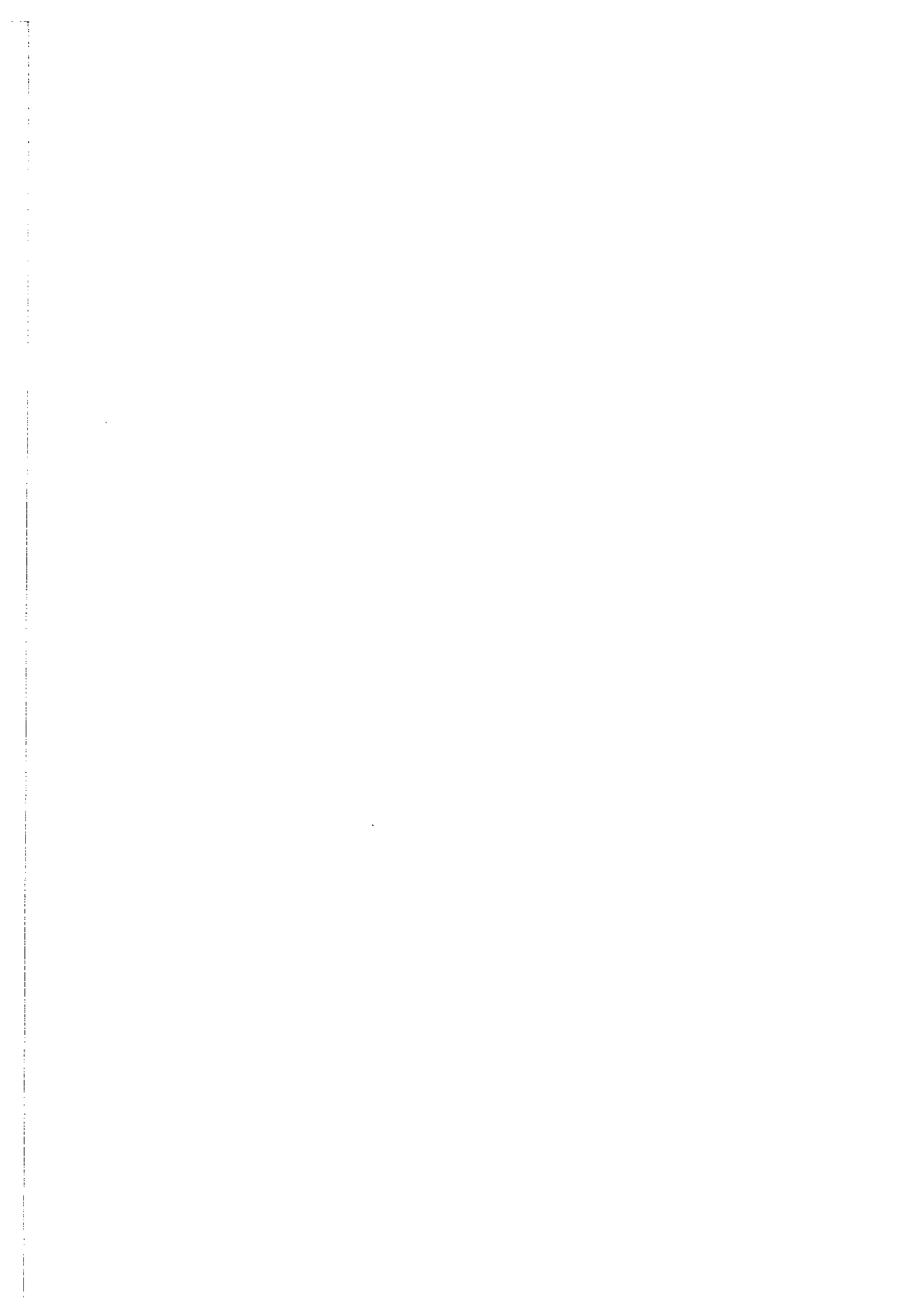
三枚

一〇五番





墨屋儀助文書目錄



# 分類項目表

## A 家の事

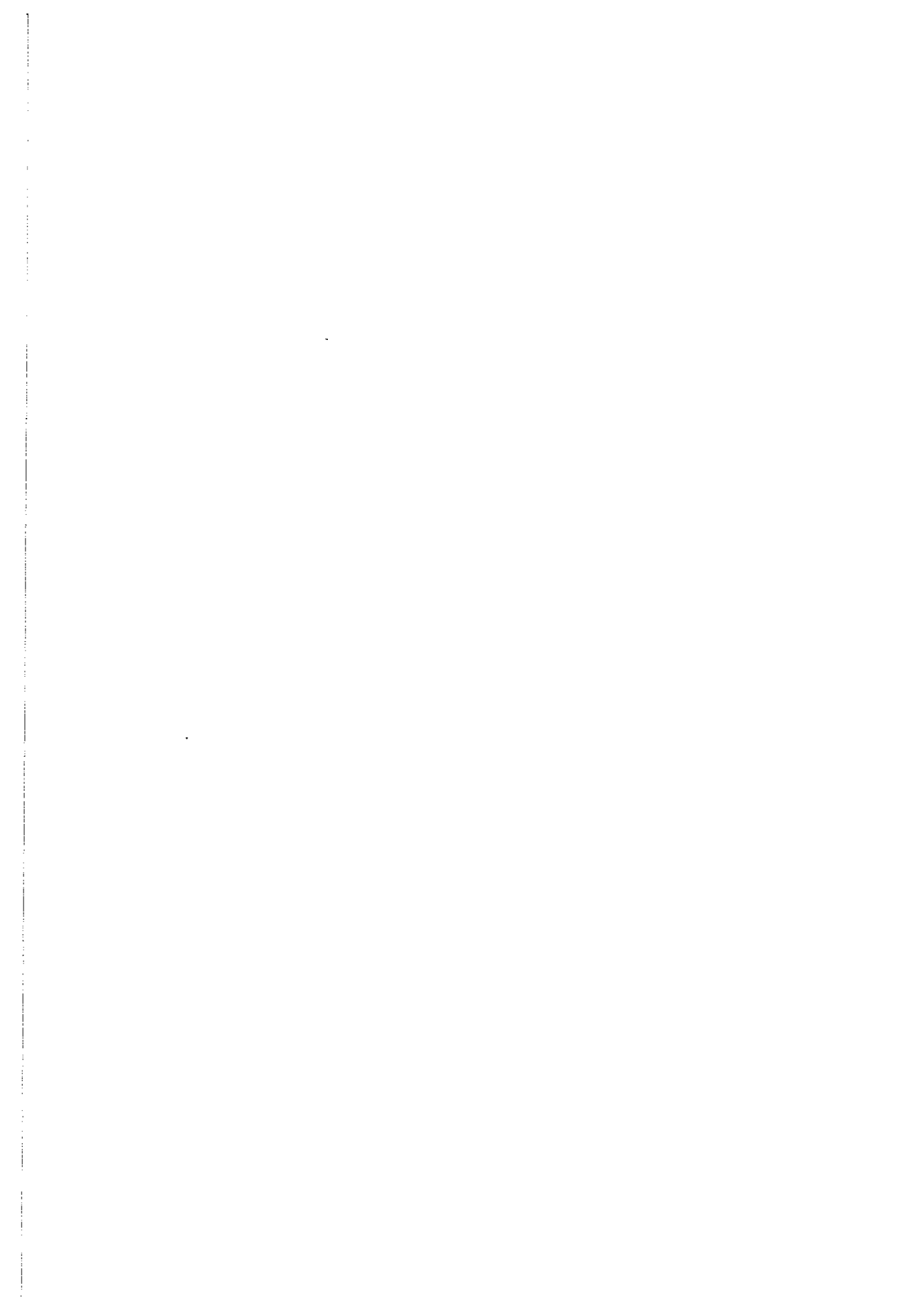
1 家 ..... 九  
家、名前、家売買、普請、約定一札

## B 商売の事

2 同職同商売約定 ..... 二〇  
同職同商売約定、墨調進、勝守筆、借用、請  
取、お詫、雇人

## C その他

3 手紙 ..... 二  
手紙、その他



# 墨屋儀助文書目録

## 家の事

家

家

永代家屋舗売券証文之事 売主年寄、富田屋利  
三郎 墨屋惣助宛 文化一〇年二月 一通 四

一札〔家名の儀〕 墨屋和平 墨屋儀助宛 天  
保七年九月 一通 三

一札〔家名の儀〕 墨屋和平・証人 墨屋庄助  
墨屋儀助宛 天保七年九月 一通 二

見積設計書 吉田熊吉 明治三五年六月 一綴 元

〔太兵衛一件〕 太左衛門 石上義助宛 一  
月三〇日 一通 五

附物覚 一通 六

仕法書 一綴 元

仕法書 一綴 三

名前

一札〔名前使用〕 墨屋儀助・墨屋宗助他一名  
墨屋和平・御町役人衆中宛 文化一三年一月 一通 〇

御頼申置一札之事 河内屋源右衛門 御年寄・  
墨屋儀助宛他一名 文政一三年閏一月 一通 元

頼一札之事〔名前切替〕 河内屋源右衛門 河  
内屋差兵衛・阿波屋藤兵衛宛 文政一三年 一通 四

家 売 買

家屋舗売券証文之事 灰屋七兵衛・播磨屋又兵  
衛 墨屋惣助宛 文政元年一〇年 一通 七

売渡証文之事 杉彌助 石村こま宛 明治一〇  
年七月八日 一通 四

覚〔家売買一件〕 月行司 天王寺屋與市郎・  
松屋六左衛門 墨屋宗助宛 一〇月一二日 一通 二

普 請

一札〔普請〕 始屋金助 本経寺宛 文政九年  
九月 一通 三

約 定 一 札

約定一札之事 墨屋儀助幼少二付父金太郎 堺  
屋彌右衛門・炭屋吉兵衛宛 天保六年閏七月 一通 二

約定一札之事 墨屋儀助父金太郎 堺屋彌右衛  
門・炭屋吉兵衛宛 天保六年閏七月 一通 三

差入申一札之事 うた娘・つね 墨屋儀助宛  
明治三年五月 一通 三

家

九

# 商売の事

## 同職同商業約定

### 同職同商業約定

証〔同職同商業約定〕 親、西尾三五郎・請人 一通 三

### 墨調進

達書〔御用墨調進〕 雲龍院役所 墨屋儀助宛 一通 一

### 勝守筆

一札〔勝守筆売扱〕 墨屋儀助 勝守陸奥宛 一通 四

天保七年八月 印鑑 勝守陸奥 石上儀助宛 天保七年八月 一通 三

一札〔勝守筆販売一件〕 墨屋儀助 勝守陸奥宛 天保七年九月二十五日 一通 八

一札〔勝守筆売捌〕 一通 三

一札〔勝守筆売捌〕 一通 三

### 借用

覚〔借用金〕 本経寺 石上儀助宛 文政七年 一通 三

一札〔借用銀〕 都川屋治兵衛 墨屋儀助宛 文政九年一月二日 一通 三

預り申金子之事 灰屋萬助・請人 河内屋五兵衛 墨屋儀助宛 天保八年二月 一通 六

預り申証文之事 墨屋儀兵衛 墨屋儀助宛 万延元年五月 一通 四

年賦銀証文之事 近江屋宗助・檜物屋甚兵衛他一名 墨屋儀助宛 慶応二年六月 一通 五

別紙差入一札之事 墨屋儀助・池田屋与次兵衛他一名 雲龍院様御役人中宛 慶応二年七月 一通 九

証〔金子受贈〕 石上芳三 尊兄□宛 六月十七日 一通 五

覚〔預り銀〕 北加ノ村、安兵衛・請人、与兵衛 墨屋儀助宛 一〇月八日 一通 三

### 請取

覚〔元手銀請取〕 板屋壽助・証人豊嶋屋久兵衛他一名 墨屋宗助宛 文政四年五月 一通 三

請取申一札之事 池田川村又兵衛・同村親類、元助 石上御旦那宛 安政六年十一月 一通 八

証〔領收書〕 石村小三郎 石上儀助宛 明治一二年五月一日 一通 六

### お詫

一札〔御詫一札〕 河内屋源右衛門・証人、墨屋義助 御講中御衆中 文政一三年一月二日 一通 三

覚〔墨屋和平詫一札請取〕 勝守陸奥 墨屋儀助宛 天保七年九月十八日 一通 元

一札〔詫状〕 墨屋和平 勝守陸奥宛 天保七年九月 一通 六

雇人

年季確証 実父、安来利助・本人、うの 石上 一通 三  
 儀助宛 明治二年一月一八日  
 雇人請書 土谷茂助・二女まよ 石上宛 明治 一通 三  
 一九年八月一五日  
 雇人請証 山本庄五郎・てる 周旋人 橋爪常 一通 三  
 次郎 明治二年八月一日  
 雇人請証 青山喜七・二母トヨ 周旋人、橋爪 一通 三  
 十三 明治二三年七月十四日

その他

手紙

手紙

証〔木綿〕 石上芳三 尊兄 明治二六年三月 一通 三  
 一三日  
 手紙〔お礼〕 石上和平 石上金太郎宛 九月 一通 三  
 一九日  
 手紙〔御断〕 石上和平 石上金太郎宛 九月 一通 三  
 二一日  
 手紙〔参堂〕 西尾老人 石上義助宛 一二月 一通 三  
 一三日  
 手紙〔事故示談〕 西尾老人 石上義助宛 一 一通 三  
 一月二〇日  
 手紙〔諸事好転〕 西尾老人 石上御主人宛 一通 三  
 一二月一日

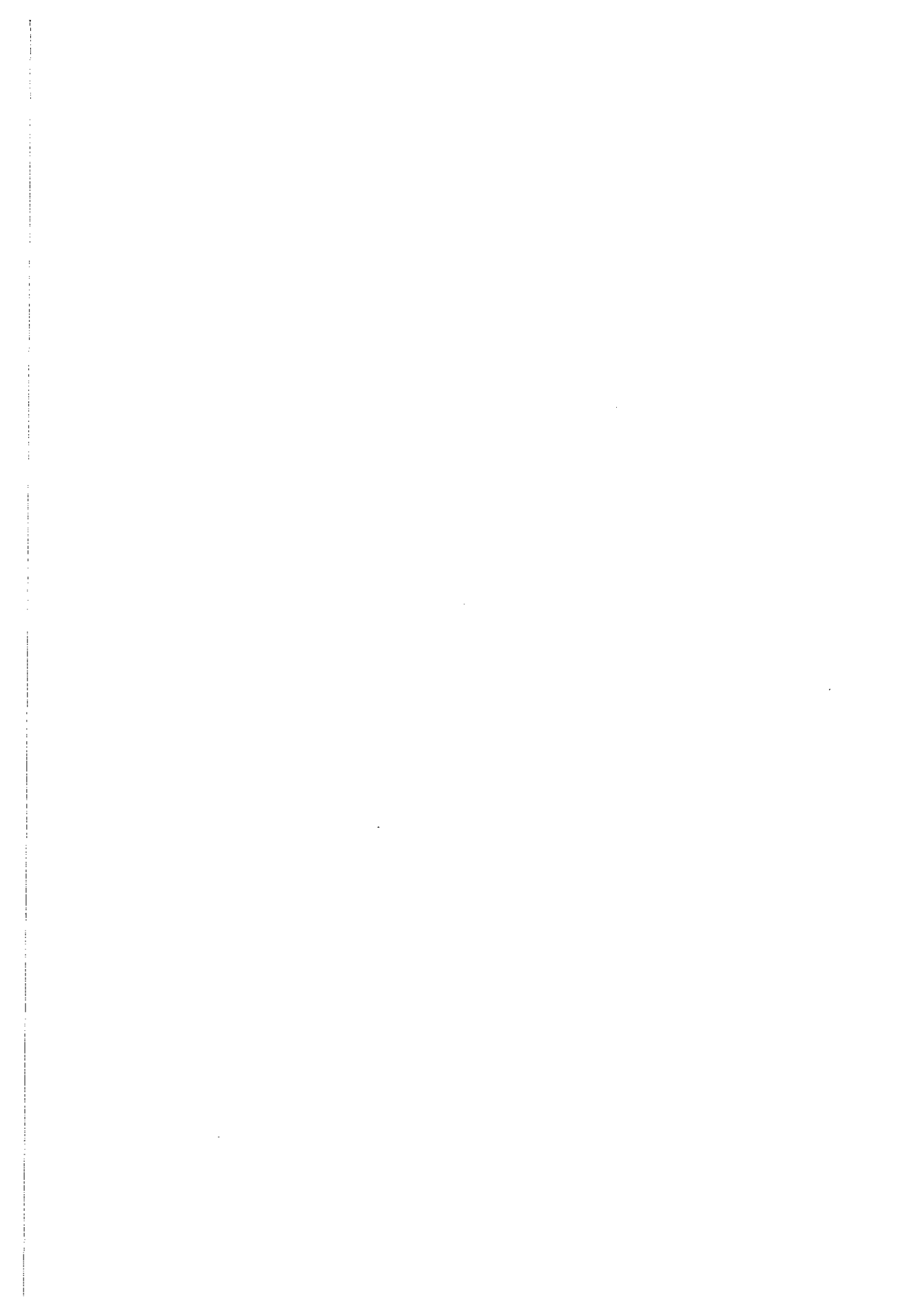
その他

一札〔町用談事〕 月行司 平尾屋新兵衛・島 一通 三  
 屋九右衛門他一名 墨屋金太郎宛 天保三年六  
 月  
 駄賃銭之事 御伝馬番所 三郷惣馬持中宛 弘 一通 六  
 化三年四月  
 口上書〔小田原提灯相改御届〕 雲龍院役人、 一通 七  
 橋本兵庫 大坂裁判所、御役人中宛 四月  
 覚〔寄進〕 本経寺 石上儀助宛 八月四日 一通 三  
 戎講最初之登り其後之次第書 一通 三





增井家文書目錄



# 分類項目表

## A 商売

1 借入金 ..... 七  
借入金・月賦借用証書・差入申一札之事・質物・譲り証書・証書紛失・貸付・訴状・商売・売付証文・引替書

## B 資産

2 家屋図 ..... 三  
家屋図・土地・家財・新築・保存登記

## C 融資

3 融資 ..... 三  
融資・計算書・年賦償還・利息

## D その他

4 その他 ..... 三  
講・献金 領収書



# 增井家文書目錄

## 商 売

### 借 入 金

#### 借 入 金

一札〔借用銀〕 河内屋久兵衛 榊屋利兵衛宛 文久三〔年〕五月	一通	七
借用申金子之事 河内屋久兵衛 榊屋利兵衛宛 元治元〔年〕一二月	一通	六
覚〔借用金〕 堺屋芳松 榊屋忠次郎宛 慶応二年正月	一通	六
預り申銀子之事 毘砂門丸要作良・丹後屋常治郎 榊屋忠治郎宛 慶応二年三月	一通	七
借用申銀子之事 大和屋佐兵衛 榊屋忠次郎宛 慶応二年七月一〇日	一通	二
借用申金子之事 灰屋長兵衛 榊屋忠治郎宛 明治四年九月	一通	三
借用申金子之事 かり主 中宮屋利兵衛 榊屋忠治郎宛 明治五〔年〕	一通	七
証〔借入金〕 吉村伊兵衛 増井忠次郎宛 明治五年一〇月一九日	一通	六

借入金

証〔借用金〕 借用主、楠藤吉・請人 平井次郎兵衛他二名 増井忠次郎宛 明治七年五月三〇日

借用申金子之事 井上伊助 増井忠次郎宛 明治七年二月二三日	一通	七
借用申金子之事 借主、菊橋七郎右衛門・受人 岡田莊四郎 山口藤四郎宛 明治七年一二月二〇日	一通	六
預り金証文之事 預り主、竹澤亀蔵 山口藤四郎宛 明治八年一月一七日	一通	七
預り申金子之事 市口茂兵衛 増井忠治郎宛 明治八〔年〕一月三一日	一通	二
借用申金子之事 大林秀松 増井忠次郎宛 治八〔年〕一月	一通	六
借用申金子之事 大林秀松 増井忠次郎宛 明 治八〔年〕一月	一通	七
借用申金子之事 大林秀松 増井忠次郎宛 明 治八年一月	一通	三
借用申金子之事 大林秀松 増井忠次郎宛 明 治八年一月	一通	三
借用申金子之事 山田長八・島田留蔵 増井忠次郎宛 明治八〔年〕一月	一通	六

借用申金子之事 忠次郎宛 明治八年二月一日	小野忠兵衛・大林秀松 増井	一通	四
借用申金子之事 藤田寅吉 増井忠治郎宛 明治八年三月三日	借用主、井上与三吉・同断、	一通	五
借用申金子之事 山口藤四郎宛 明治八年三月一〇日	借用主、木下平兵衛・井上太兵衛	一通	六
預り金証書之事 同、治郎兵衛 増井忠治郎宛 明治八年三月二三日	預り主、喜多治兵衛・証人、	一通	七
預り申金子之事 山口藤四郎 増井忠次郎宛 明治八年三月二七日	預り主、喜多治兵衛・同、山	一通	八
預り金証文之事 多治兵衛 増井忠次郎宛 明治八年四月一日	預り主、山口藤四郎・同、喜	一通	九
預り申金子之事 定次郎 山口藤四郎宛 明治八年四月二一日	預り主、山内庄吉・同、小林	一通	一〇
預り申金子之事 野源助 山口藤四郎宛 明治八年五月七日	預り主、小林定次郎・同、天	一通	一一
借用申金子之事 忠次郎宛 明治八年五月一四日	山本つな・大山庄之助 増井	一通	一二
借用申金子之事 井忠治郎宛 明治八年五月	中井徳兵衛・池田彌兵衛 榊	一通	一三
借用金証文之事 神吉友七 山口藤四郎宛 明治八年五月	借用主、吉田芳兵衛・証人、	一通	一四
借用申金子之事 治八年六月一日	井上伊助 増井忠次郎宛 明	一通	一五
借用申金子之事 庄七 山口藤四郎宛 明治八年六月一一日	借用主、鎌田庄七・同、田中	一通	一六

借用申金子之事 卯兵衛 山口藤四郎宛 明治八年六月一九日	借用主、木村直七・同、中崎	一通	一七
一札〔借入金〕 明治八年六月三〇日	太田常右衛門 増井忠兵衛宛	一通	一八
預り申金子之事 明治八年七月二〇日	喜多治兵衛 増井忠治郎宛	一通	一九
借用申金子之事 喜多治郎兵衛 増井忠次郎宛 明治八年七月	借用主、山口藤四郎・証人、	一通	二〇
預り申金子之事 次郎宛 明治九年三月七日	預り主、山口重兵衛 増井忠	一通	二一
借用申金子之事 田中平七 増井忠次郎宛 明治一〇年四月三〇日	借り主、小西安兵衛・受人、	一通	二二
預り申金子之事 治郎宛 明治八年一〇月一五日	預り主、山口重兵衛 升屋忠	一通	二三
借用申金子之事 忠治郎宛 明治九年一月四日	山本伊助・喜多治兵衛 増井	一通	二四
借用申金子之事 井忠治郎宛 明治九年二月一九日	田村新兵衛・岡田佐兵衛 増	一通	二五
借用申金子之事 治郎宛、明治九年二月一九日	借用主、山口重兵衛 升屋忠	一通	二六
借用申金子之事 九年二月二二日	林良助 増井忠治郎宛 明治	一通	二七
証〔借入金〕 明治九年三月二日	借主、片岡宗助 増井忠治郎宛	一通	二八
預り申金子之事 九年六月	山口重兵衛 林良助宛 明治	一通	二九

借用申金子之事 倉定七 增井忠次郎宛 明治一〇年九月一〇日	借用申金子之事 松下重助 增井忠次郎宛 明治一二年八月三〇日	借用申金子之事 借用主、小西長三郎・諸人、 小西庄蔵 增井忠次郎宛 明治一二年九月三〇日	証〔借用金〕 七里市之助 增井忠治郎宛 明治一三年六月一日	借用金証券 藤本嘉助 榊井忠治郎宛 明治一三年六月三日	借用申金子之事 秋田仁兵衛他二名 增井忠治郎宛 明治一三年七月二八日	借用申金子証 借用主、中村伊兵衛 榊忠宛 明治一五年四月二九日	借用申金子之事 借用主、松岡庄七・引諸人、 松岡庄三郎 增井忠治郎宛 明治一五年七月二日	抵当物書入借用金証書 北桃谷町三〇番地、南 谷かう 增井忠次郎宛 明治一五年一二月三〇日	借用申金子之事 山口コノ 增井忠次郎宛 明治一六年六月一七日	借用金確証 松尾善吉 榊井忠次郎宛 明治一六年六月	借用証 今堀利衛 增井忠次郎宛 明治一六年九月一四日
一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
五	三	九	三	三	三	六	天	三	元	壹	元

借用金確証 筒井作造 榊井忠治郎宛 明治一七年二月	借用申金子之事 紀ノ安治郎 增井忠治郎宛 明治一七年三月	借用金確証 正村清次郎 增井忠次郎宛 明治一七年五月一三日	借用申金子証書 紀ノ安治郎 增井忠次郎宛 明治一七年六月	借用之証 借用主、尾前彌兵衛 明治一七年一月一〇日	証〔借入金〕 岸嘉兵衛 增井忠次郎 宛 明治一九年六月二五日	証〔借入金〕 山本惣平 增井忠治郎 宛 明治一九年一月〇日	借用金確証 森原清吉 增井忠治郎宛 明治一六年八月二五日	確証〔借入金〕 古谷忠二郎 增井忠次郎宛 明治一三年一月一四日	金子借用証 借用主、岡村康造 明治一四年一月二四日	証〔借用金〕 增井利兵衛 增井忠次郎宛 明治一五年五月七日	預り申金子之事 刀屋半兵衛 榊屋忠次郎宛 未一一月晦日	〔借入金〕 今堀利兵衛 升忠宛 申一〇月七日
一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
三	六	三	九	六	元	元	六	三	三	二	金	三

借用申金子之事 瓦屋町考番了、三宅傳三郎 一通 全

金子借用正預り書之事 中村伊兵衛 増井忠兵衛宛 六月二十九日 一通 毛

月賦借用証書之事

月賦借用証書之事 かり主、松村安治郎・請人、豊傳文平 増井忠治郎宛 明治七年五月 一通 六

月賦借用証書之事 借用主、小野源助・請人、楠藤吉 増井忠次郎宛 明治七年六月 一通 五

月賦借用証書之事 山田正吉・稻本茂兵衛 葎定七宛 明治七年七月 一通 五

月賦借用証書之事 借用主、田中甚七・請人、河内伊助 増井忠治郎宛 明治七年七月 一通 四

月賦借用証書之事 借用主、大山武・証人、松井倅兵衛 葎定七宛 明治七年八月 一通 毛

月賦借用証書之事 葎定七・善川善四郎 増井忠治郎宛 明治七年八月 一通 登

月賦借用証書之事 平岡希舞・証人、岡本熊治郎 葎定七宛 明治七年九月 一通 五

月賦借用証書之事 雲本寅三郎・福井半兵衛 葎定七宛 明治七年十一月 一通 登

月賦借用証書之事 福田忠治郎・請人、別所作兵衛 葎定七宛 明治七年十二月 一通 二登

月賦借用証書之事 松井栄蔵・角谷音吉 葎定七宛 明治八年一月 一通 六

月賦借用証書之事 借用主、紀寺清七・同、佐々木清兵衛 柳川得兵衛宛 明治八年二月二〇日 一通 四

月賦借用証書之事 田中甚七・上田彌三郎 葎定七宛 明治八年三月 一通 六

月賦金証文之事 借用主、久渡彌助・請人、北出興平衛 吉川又三郎宛 明治八年四月二五日 一通 四

月賦借用証書之事 借用主、貴田源治郎・請人、貴田源助 増井忠治郎宛 明治八年六月一五日 一通 二登

月賦金証書譲り渡之事 葎定七 榊井忠次郎・坂本清兵衛宛 明治八年八月八日 一通 三

月賦証証之事 借用人、松井栄蔵・山口客吉他一名 増井忠治郎宛 明次九年四月三日 一通 三

月賦証券 借用主、黒田彦二郎・請人、稲田利右衛門 増井忠次郎宛 明治一一年一月一五日 一通 三

月賦金借用証 正村清次郎 増井忠次郎宛 差入申一札之事 一通 毛

差入申一札之事 榊屋忠治郎 本家榊屋利兵衛宛 元治二(年)三月二五日 一通 六

差入申置候一札之事 升屋忠次郎 本家、榊屋利兵衛宛 元治二(年)三月二六日 一通 六

差入申一札之事 榊屋忠治郎 本家、榊屋利兵衛宛 元治二年三月二六日 一通 六

差入申一札之事 山下犀次郎 明治九年一月五日 一通 毛



差入一札証 小西安兵衛・妻すへ 増井忠次郎 一通 八

差入一札証 岡本熊治郎 増井忠次郎宛 明治一四年七月一〇日 一通 三

質物

諸道具質物証文事 質置主、江戸屋松之助・諸人、綿屋與三吉他一名 榊屋忠次郎宛 明治五年二月 一通 三

譲り証書

譲り証書之事 譲り主、加藤恒祐 喜多治兵衛宛 明治八年一月七日 一通 三

譲り証書 増井忠次郎 安東求一宛 明治九年五月一四日 一通 七

譲り渡し証 喜多治兵衛 増井忠次郎宛 三月一九日 一通 七

証書紛失

証〔預り証書紛失之件〕 浦芳松 増井忠次郎宛 明治二八年二月二〇日 一通 三

貸付

証〔貸付金〕 池田佐七 増井忠二郎宛 〔明治〕一二年一月一日 一通 三

訴状

貸金催促之訴状 原告人増井忠次郎 大阪裁判所長、清置五等判事宛 明治八年九月一〇日 一冊 二

商売

古物商營業願 増井忠次郎 大阪府南警察署長、警部山下嘉太郎宛 明治三〇年三月二二日 一綴 五

売付証文

売付証文之事 売主、川口善五郎 高村嘉兵衛宛 明治一六年三月二三日 一通 一〇三

引替書

引替書覚 鰻谷二丁目 生駒町宛 卯五月二一日 一通 八

資産

家屋図

家屋図

御居宅并〔御借家略図〕 一枚 六

御居宅并〔御借家略図〕 一枚 七

〔増井忠次郎家見取図〕 一枚 八

土地

明細書 一綴 九

家財

一札〔道具帳〕 榊屋忠次郎 本家、榊屋利兵衛宛 元治二年三月 一冊 四

新 築

土蔵移転及び新築費 増井忠次郎 明治四三年八月 一冊 一

保 存 登 記

土地建物所有権保存登記申請 申請人、増井忠次郎 大阪区裁判所今宮出張所 明治三四年一月二四日 一綴 〇

土地建物第二番抵当権設定証書 大阪区裁判所今宮出張所 山名タネ宛 大正八年八月四日 一袋 二

融 資

融 資

融 資

〔融資の件〕 株式会社大阪農工銀行 増井忠次郎宛 大正七年一月一日 一枚 三

計 算 書

計算書 株式会社大阪農工銀行 増井忠次郎宛 大正七年一月二九日 一通 五

年 賦 債 還

大正七年十一月分年賦償還金御入金 株式会社大阪農工銀行 増井忠治郎宛 大正七年一月一五日 一通 三

大正七年十一月分年賦償還金御入金 株式会社大阪農工銀行 増井忠次郎宛 大正七年一月一五日 一通 三

利 息

利足約定書之事 山内庄吉・小林定次郎 山口藤四郎宛 明治八年四月二一日 一通 一

利子金受取通 山名タネ 増井忠次郎宛 大正七年一月 一通 四

大正七年十一月分払込利息金御入金 株式会社大阪農工銀行 増井忠次郎宛 大正七年一月二九日 一通 三

そ の 他

そ の 他

講

頼之母子金受取通 会主 保井彌三郎 増井忠次郎宛 明治二八年六月 一通 三

頼之母子金受取通 講元、保井彌三郎 増井忠次郎宛 明治三〇年七月 一通 三

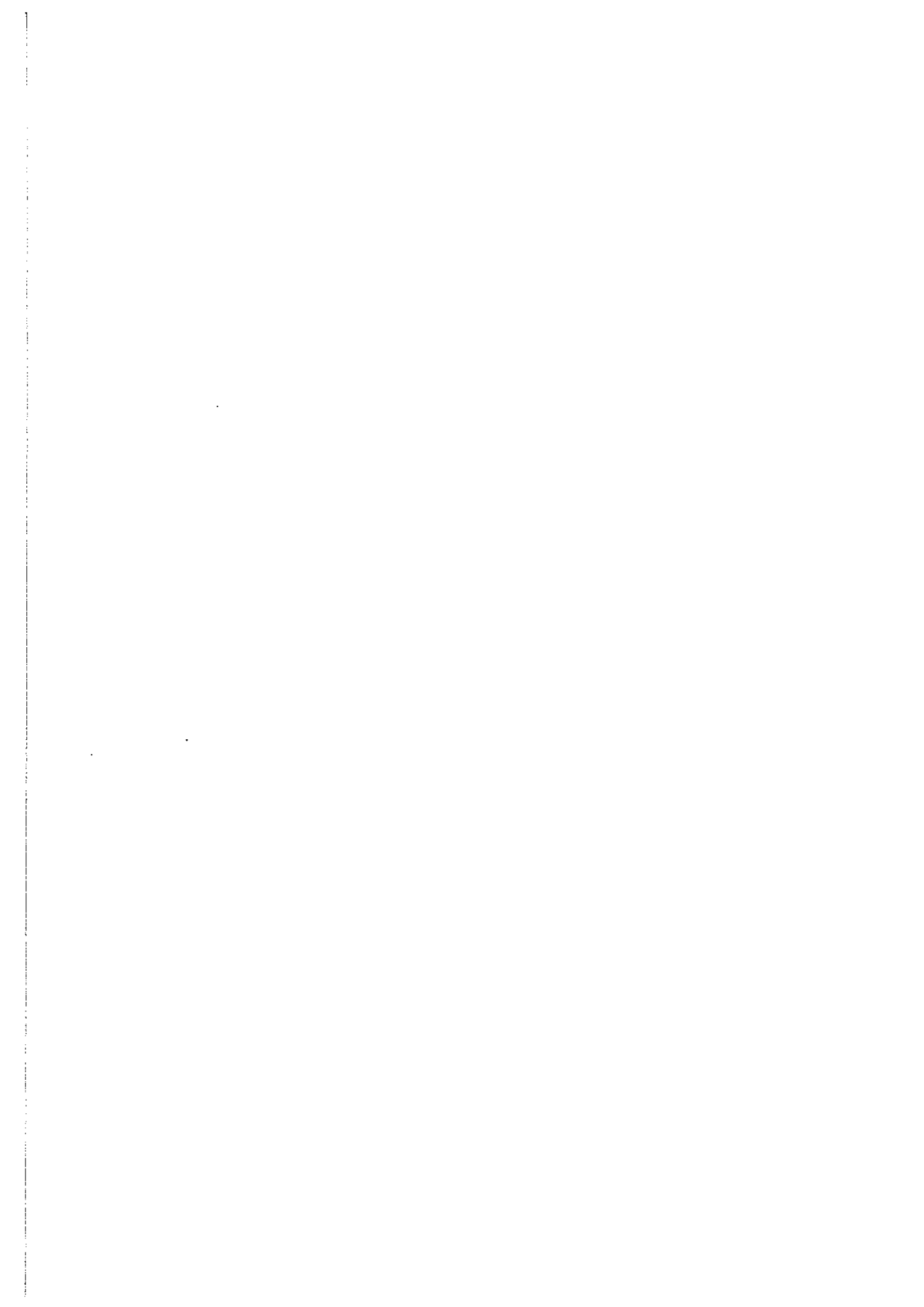
献 金

覚〔献金〕 升屋忠次郎 庄屋、与兵衛宛 乙丑八月 一通 五

領 収 書

仮記〔請取代金支払〕 仲鹿蔵 増井宛二二月九日 一通 〇

吉野屋文書目錄



# 分類項目表

## A 商 売

1 営業	.....	三
漆・木綿	.....	三
2 資産	.....	三
資産・土地・貸地・屋敷・屋敷売却・建築・普請	.....	三
3 帳簿	.....	三
帳簿・荷請帳・株券持控帳・店卸・受取書	.....	三
・税・金銀出入簿・その他	.....	三
4 商業用具	.....	三
証文挾	.....	三
5 貸付	.....	三
貸付金・漆店貸付・利息・通知書	.....	三
6 質	.....	三
家質・質・譲り渡し	.....	三
7 借入	.....	三
借用・預り金	.....	三
8 裁判	.....	三
裁判・公売・登記	.....	三
B 家法・分家	.....	三
9 家法	.....	三
家法・通・養子	.....	三

10 冠婚葬祭	.....	三
仏事・法事・婚礼	.....	三
11 交際	.....	三
交際・至来品	.....	三
12 教養	.....	三
経・道中記・手紙・縁起・宗教	.....	三
13 分家	.....	三
分家・詫・営業種目	.....	三



# 吉野屋文書目錄

## 商 売

### 營業

#### 漆

漆買帳 吉野善兵衛 慶応元年二月〜明治二年二月	一冊	七
琉球朱家具控 六代目谷善兵衛 明治二年六月	一冊	九
漆拵控 谷善兵衛 明治三年五月	一冊	六
漆代金渡帳 吉野善兵衛 明治六年六月一日	一冊	六
漆荷物算用 吉野屋見勢 <small>(見勢)</small> 文久二年五月	一冊	六
漆荷造算用 明治六年九月	一冊	三
漆代金請取之簿 齋藤嘉兵衛 吉野善兵衛 明治一七年七月〜同二〇年五月	一冊	五
漆代金請取通 水田いま 吉野善兵衛宛 明治一八年一月〜同二〇年三月	一冊	六
漆代金請取之通 有限責任大阪漆商社 吉野善兵衛宛 明治二年一月一日〜同年一月二〇日	一冊	七
漆代金請取之通 大阪漆商社 吉野善兵衛宛 明治二年一月一日〜同年一月三〇日	一冊	六

營業・資産

漆代金請取通 水田與右衛門 吉野善兵衛宛 明治三〇年一月〜十一月	一冊	六
漆代金請取之通 齋藤嘉兵衛 吉野善兵衛宛 明治三〇年一月〜二月	一冊	六
〔漆店分積立金控〕 吉野 明治三八年一月〜三九年一月	一冊	三五
〔元附問屋五步引〕 吉野	一冊	六一
漆元附拵算用控 多荷善兵衛 明治元年九月	一冊	五
漆元附控 吉野 明治二〇年一月一日	一冊	六
元附控 吉野	一冊	六一

#### 木 綿

式号大宝恵 多荷善兵衛 慶応三年正月四日	一冊	七
大宝恵 善右衛門 明治二一年四月二一日	一冊	六
柳屋みときりものいろいろひかえ 辰とし	一冊	一五

#### 資 産

#### 資 産

有物控 〔吉野〕 文政七年八月	一冊	九
-----------------	----	---

有物飛加恵	〔吉野〕	文政八年正月	一冊	四
紀州方大宝恵帳	谷氏	天保二〔年〕二月二五日	一冊	五
土 地				
一札〔屋敷売却〕	布屋やさ・吉文字屋善右衛門 月行司中・五人組中宛	文化六年一二月	一通	六
永代売渡申家屋敷之事	布屋やさ・五人組、和泉屋善右衛門他四名	吉野屋善七宛 文化六年一二月	一通	七
永代売渡申家屋敷之事	深江屋伊兵衛・五人組、河内屋久右衛門他六名	吉野屋善兵衛宛 文化七年九月	一通	八
永代売渡申証文之事	和泉屋善右衛門・五人組、鋸屋彦兵衛他五名	吉野屋善兵衛宛 文化七年九月	一通	九
永代売渡申証文之事	和泉屋善右衛門・五人組、象牙屋喜兵衛他四名	吉野屋善兵衛宛 文化九年十一月	一通	一〇
一札〔地面取替〕	津国屋吉兵衛	吉野屋善兵衛宛 文政五年二月	一通	一一
家屋舗売券状之事	家屋敷売主、伊勢屋七之助・年寄、奈良屋佑兵衛	吉野屋善兵衛宛 天保九年九月	一通	一二
増金受取確証	売渡主、吉野久兵衛・保証人、堀口弥兵衛	吉野善兵衛・実父、吉野善右衛門宛 明治二二年五月二日	一通	一三
〔宅地建物図〕	売渡主、吉野久兵衛	買受主 吉野善兵衛宛 明治二六年五月二日	一通	一四
家屋敷帳切御出銀	北久太二会所	吉野屋善兵衛宛 戊九月	一通	一五
貸 地				
取為替一札	和泉屋善左衛門	吉野屋善兵衛宛 文化八年閏二月	一通	一六
屋 敷				
掛ヶ屋敷算用諸事控	吉野	明治一五年五月三一日	一冊	一七
屋敷売却				
覚〔掛屋敷売却請取証〕	布屋やお	吉野屋善兵衛宛 文化六年一二月	一通	一八
建 築				
分宅建築諸材料買入帳	吉野建築部	大正一一年三月〔同〕一二年二月	一冊	一九
普 請				
普請諸入用控			一冊	二〇
帳 簿				
大宝恵	谷善兵衛	慶応四年正月	一冊	二一
大宝恵	吉野	明治二三年一月	一冊	二二
利金勘定控	吉野	明治二四年一月	一冊	二三
二号公債証株券日家恵	吉野	明治二四年八月	一冊	二四



当座預り金通帳 第四百十八国立銀行 吉野善兵衛宛 明治二五年一月〜一二月	一冊	三六
当座預り金通帳 第二百一十一国立銀行 明治二九年一月〜九月	一綴	三九
有物諸品控 吉野 明治二七年	一冊	五九
三号貯蓄金預控 吉野 明治二九年一月	一冊	六六
大宝恵 (吉野) 明治二九年五月	一冊	三三
当座預金通帳 株式会社大阪三商銀行 吉野善兵衛宛 明治二九年八月	一冊	二七
財産目録簿 吉野善兵衛 明治三〇年一月	一冊	三四
銀行有金控 吉野 明治三三年一月	一冊	三〇
登り金 明治三四年〜明治三九年	一冊	六二
大宝恵 吉野 明治三四年	一冊	三三
大勘定仮控 吉野 明治三四年一月四日	一冊	二九
仏事□ 吉野 明治三六年五月	一冊	三三
債権当銀金及嘉三郎持利足貯蓄預出入控 吉野金庫部 明治四〇年一月	一冊	六九
債権番号控 吉野 明治四二年五月	一冊	三〇
積立金控簿 吉野 明治四三年一月	一冊	三二
証〔算用〕 三月〜九月	一綴	三六
荷請帳		
〔荷請帳〕 吉野善兵衛 明治二九年一月〜二月	一冊	五二
〔荷請帳〕 吉野善兵衛 明治三三年九月〜一月	一冊	六八
〔荷請帳〕 吉野善兵衛 二月二六日〜四月一六日	一点	二五
株券持控簿		
株券持控簿 吉野 明治四〇年一月	一冊	二五
大宝恵 吉野善兵衛 大正五年	一冊	二五
店 卸		
たなをろし 谷氏 文政二年正月	一冊	四〇
たなをろし 谷氏 文政三年正月	一冊	四一
たなをろし 谷氏 文政四年正月	一冊	四二
たなをろし 谷氏 文政五年正月	一冊	四三
たなをろし 谷氏 文政八年正月	一冊	四四
たなをろし 谷氏 文政八年正月	一冊	四五
受取書		
覚〔請取証〕 深江屋伊兵衛 吉野屋善兵衛宛 文化七年九月	一通	三六
覚〔土蔵売却請取証〕 和泉屋善左衛門 吉野屋善兵衛宛 文化七年九月	一通	三七
覚〔家屋敷売却請取証〕 和泉屋善左衛門 吉野屋善兵衛宛	一通	三〇

税

未納地租金年賦延納証書写 橋本又兵衛 大阪府知事、建野郷三宛 明治一七年二月一二日	吉野善兵衛 戸長 明治	一綴	一五
所得税・營業税届書控 吉野善兵衛 明治三五年一月	明治三五	一冊	二〇
金銀出入簿 吉野 明治三五年一月	明治三五	一冊	七
金銀出入簿 吉野 明治四五年一月	明治三五	一冊	七
計算簿 吉野善兵衛 大正一二年一月一〇日、 大正一三年一二月三一日	明治三五	一冊	六

その他

売高控 吉野 明治一九年一月	明治一九	一冊	五
注文帳商内金高集控 〔吉野〕多荷 慶応三年正月、明治一〇年	明治一九	一冊	五
割印帳 吉野善兵衛 明治三五年	明治三五年	一冊	九
仮勘定札買 未正月二〇日	明治三五年	一冊	六

商業用具

証文挾

証文挾 明治元年九月	明治元年九月	一点	二六
証文帯紙挾 明治二七年八月	明治二七年八月	一点	二七

貸付

貸付金

貸附第壹番取替帳 谷善兵衛 明治元年、明治三年	谷善兵衛 明治元年、明治三年	一冊	七
証 吉野善兵衛 明治二四年二月	明治二四年二月	一綴	二七
番号貸附清算日家栄 吉野 明治二九年一月	明治二九年一月	一冊	〇
貸附日家恵 吉野 明治三五年一月	明治三五年一月	一冊	三
漆店貸附 一号大宝恵 吉野 明治三一年一月	明治三一年一月	一冊	一五

利息

日家恵 吉野 明治二〇年一月	明治二〇年一月	一冊	四
日家恵 吉野 明治二二年一月	明治二二年一月	一冊	二
貸附利金勘定控 吉野 明治二五年一月	明治二五年一月	一冊	五
日家恵 吉野 明治二七年一月	明治二七年一月	一冊	三
日家恵 吉野 明治三一年一月	明治三一年一月	一冊	四
利金請取通 吉野善兵衛 今井安治郎宛 明治三一年二月、九月	明治三一年二月、九月	一通	元
日家恵 吉野 明治三三年一月	明治三三年一月	一冊	二
日家恵 吉野 明治三四年一月	明治三四年一月	一冊	三
利足入金帳 吉野 明治三五年一月	明治三五年一月	一冊	一

通知書

通知書 吉野善兵衛 村井久太郎・村井ヤス宛 一綴 三  
明治三一年九月〜同年一月

質

家質

家屋舖上端証文之事 和泉屋善右衛門・硯屋次 一通 三三  
兵衛 吉野屋善兵衛・鋸屋幸助 文化七年九月

家質証文之事 置主、吉野屋善七・五人組、鋸 一通 三三  
屋幸助他四名 升屋傳兵衛宛 文化八年三月

利銀請負一札之事 請負人、吉野屋善兵衛・家 一通 三三  
質置主、吉野屋茂兵衛 阿波や貴右衛門宛 弘  
化二年八月

家質利銀請負証文之事 象牙屋松助宛 慶応元 一通 三三  
年閏五月

家質証文之事 置主、吉野屋善兵衛他七名 象 一通 三三  
牙屋松助宛 慶応元年閏五月

〔家質〕 吉野善兵衛 明治五年正月〜同一四 一通 三五  
年一〇月

家質証文之事 買主、吉野屋善兵衛・年寄、錢 一通 三三  
屋安兵衛他八名 象牙屋宗兵衛宛 安政二年六  
月

一札〔家質にて銀子借用〕 家質置主、吉野屋 一通 三三  
善兵衛 象牙屋宗兵衛宛 弘化二年八月

家質証文之写 家質置主、吉野屋善兵衛他 象 一通 三三  
牙屋宗兵衛宛 弘化二年八月

覚〔利足請取証〕 象牙屋宗兵衛 吉野屋善兵 一通 三三  
衛宛 巳七月三〇日

覚〔請取証〕 天満屋與藏 吉野屋宛 巳七月 一通 三三  
一日

覚〔利足請取証〕 象牙屋宗兵衛 吉野屋善兵 一通 三三  
衛宛 巳八月三日

覚〔請取証〕 天満屋與藏 吉野屋宛 巳八月 一通 三三  
六日

覚〔会積金請取証〕 與藏 吉野宛 申三月一 一通 三三  
四日

覚〔利足請取証〕 象牙屋惣兵衛 吉野屋善兵 一通 三三  
衛宛 申三月一四日

〔午七月より申二月迄二十ヶ月分未受取〕 一通 三三  
質

質入証 質置主、森本太兵衛 受人、吉野善兵 一通 三三  
衛宛 明治八年八月一二日

質仲間定法書 南組質仲間 一冊 三三

譲り渡し

為取替一札之事 吉野屋善左衛門・吉野屋茂兵 一通 三三  
衛他一名 伊勢屋七之助宛 天保九年一二月

借入

借用

預り銀子之事 三木屋庄兵衛・三木屋与兵衛他 一通 三三  
二名 日野屋要助宛 天保一五年二月

預り申銀子之事 他一名 綿屋庄兵衛宛 弘化二年四月	吉野屋善兵衛・吉野屋茂兵衛	一通	三
預り銀連印証文之事 村、文右衛門他二名 三年正月	正覚寺村、五兵衛・住吉 別所村、音五郎宛 弘化	一通	三
年賦証文之事 弘化四年三月	吉野屋善兵衛 併屋平兵衛宛	一通	三
年賦証文之事 綿屋庄兵衛宛	吉野屋善兵衛・吉野屋茂兵衛 弘化四年一二月	一通	三
年賦証文之事 黒川屋清三郎宛	吉野屋善兵衛・吉野屋茂兵衛 嘉永四年正月	一通	三
借用申金子之事 宛 嘉永四年二月	吉野屋善兵衛 但馬屋儀兵衛	一通	三
年賦預申銀子之事 宛 嘉永四年六月	吉野屋善兵衛 藤屋利兵衛	一通	三
一札〔日野屋要助殿融通不都合の件〕 庄兵衛・三木屋庄七 年六月	吉野屋善兵衛宛 嘉永四	一通	三
預り申金子之事 屋善兵衛宛 嘉永四年七月	三木屋庄兵衛・同庄七 吉野	一通	三
借用申銀子之事 名 日野屋要助宛	三木屋庄兵衛・同与兵衛他二 嘉永四年七月	一通	三
年賦預り申銀子之事 宛 嘉永五年正月	吉野屋善兵衛 藤屋嘉兵	一通	三
年賦証文之事 とら宛 嘉永六年正月	吉野屋茂兵衛・同善兵衛 丸屋	一通	二六一
年賦証文之事 升屋傳兵衛宛 嘉永七年五月	吉野屋茂兵衛・吉野屋善治郎	一通	三

預り申銀子之事 月 負人、吉野屋茂兵衛	銀預り主、吉野屋善兵衛・請 針屋つせ宛 嘉永七年六	一通	三
預り申金子之事 野太兵衛宛	吉野屋茂兵衛・同善次郎 吉 安政三年一二月	一通	三
年賦銀請取通 文久〔二〕年	丸屋吉兵衛 吉野屋善兵衛宛	一通	二六一
覚〔受取証〕 月一五日	太兵衛 御本家宛 明治六年七	一通	三
約定 善兵衛	明治六年七月一五日	一通	三
〔吉野太兵衛差入一札〕 岡崎栄治郎宛	証人、吉野善兵衛 明治八年八月	一通	三
記〔太兵衛借用之件〕 崎栄治郎宛	証人、吉野善兵衛 岡 明治八年八月	一通	三
預り金確証 二四年三月一五日	吉野久兵衛 吉野善兵衛宛 明治	一通	三
預り金確証 二四年三月一五日	吉野善兵衛 吉野久兵衛宛 明治	一通	三
契約証 借用主、三谷喜三右衛門 宛 明治三一年九月一四日	吉野善兵衛 吉野善兵衛	一綴	三
契約証 借主、高田太右衛門 明治三一年九月一四日	吉野善兵衛宛	一綴	三
契約証 借主、瀬原捨松 三一年九月一四日	吉野善兵衛宛 明治	一綴	三
契約証 借主、児嶋孝兵衛 治三一年九月一四日	吉野善兵衛宛 明	一綴	三

契約証 借主、足立清吉 三一年九月一四日	吉野善兵衛宛	明治	一綴	壹
契約証 借主、大嶋清三郎 治三一年九月一四日	吉野善兵衛宛	明	一綴	貳
契約証 負債主、石田卯八郎 明治三一年九月一四日	吉野善兵衛宛		一綴	参
契約証 借主、山村福松 三一年九月一四日	吉野善兵衛宛	明治	一綴	肆
契約証 借主、山岸菊松 三一年九月一四日	吉野善兵衛宛	明治	一綴	伍
契約証 借主、田原利右衛門 明治三一年九月一四日	吉野善兵衛宛		一綴	陸
契約証 負債主、竹中秀四郎 明治三一年九月一七日	吉野善兵衛宛		一綴	柒
契約証 借主、齋藤寅吉 治三一年九月二二日	吉野善兵衛宛	明	一綴	捌
契約証 借主、久代権七 三一年九月二二日	吉野善兵衛宛	明治	一綴	玖
契約証 負債主、田中勇助 治三一年九月二二日	吉野善兵衛宛	明	一綴	拾
確証 借用主、村井久太郎他四名 明治三一年九月	吉野善兵衛宛		一綴	拾一
契約証 借主、福井弥助 三一年一一月八日	吉野善兵衛宛	明治	一綴	拾二
委任状 今北真三郎 年	吉野善兵衛宛	明治三一年	一通	拾三

金員借用証 借用主、 明治三二年四月三〇日	吉野善兵衛宛		一通	拾四
月賦金請取通 本家 借用主、若槻喜一郎宛 明治三四年九月			一冊	拾五
預り金				
預り金証文 本家、善兵衛 分宅、楳常宛 治一四年一一月		明	一通	拾六
木綿商預り金確証 吉野利兵衛 御親父宛 治一五年三月一五日		明	一通	拾七
預り金勘定書 本家兄貴 分家久兵衛 六年九月		明治一	一通	拾八
裁判言渡書 大阪始審裁判所 原告、塩田伊之助・被告、香川敬一宛			一冊	拾九
膳本 大阪区裁判所、辻徳・村井久太郎母、村井ヤス他一名 大阪区裁判於島之内届所宛 治三一年八月		明	一綴	拾
契約証 負債主、村井久太郎他一名 吉野善兵衛宛 明治三一年			一綴	拾一
委任状 村井ヤス 吉野善兵衛宛 明治三二年			一綴	拾二
契約証膳本 負債主、村井久太郎・債主、吉野善兵衛他一名 大阪区裁判於島之内届所宛 治三一年		明	一綴	拾三

公 売

地所建家及造作家附物公売御届 公売落札人、吉野善兵衛 戸長、橋本又兵衛宛 明治一七年一月一日

一通 三三

〔東区備後町二十九番地建物図〕 建物公売落札人、吉野善兵衛 戸長、橋本又兵衛宛 明治一七年一月一日

一通 三三

家附物点数数帳 書入主、松本壽・受入、五十川長兵衛 吉野善兵衛宛 明治一八年七月二二日

一冊 三七一六

家附属品点数数帳 持主、松本壽 吉野善兵衛宛 明治一九年二月二三日

一綴 三七一五

保証書写 保証人、宇野建七・保証人、小島宇朔 小柴景起宛 明治二〇年四月二九日

一通 三七一三

為取換契約証 契約主、吉野善兵衛・後見人、塩田伊之助 貝掛市兵衛宛 明治二〇年五月六日

一通 三七一三

為取換契約証 契約主、吉野善兵衛宛 明治二〇年五月六日

一通 三七一四

地所建物売渡確証写 売渡主、吉野善兵衛・後見人、塩田伊之助 貝掛市兵衛宛 明治二〇年五月六日

一綴 三七一七

未納地租金年賦延納之分一時上納付上申 吉野善兵衛 大阪府知事、建野郷三宛 明治二〇年五月

一綴 三七一

登 記

委任状写帳 吉野善右衛門 明治二七年四月

一冊 八

土地抵当権消滅二付登記申請書 抵当権者、吉野善兵衛・抵当権設定者、福井満助 大阪区才判所宛 明治三二年八月一〇日

一綴 三

家法・分家

家 法

家 法

記〔元手金請取の件〕 兄、善兵衛 久兵衛 明治八年五月

一冊 〇元

讓金之一札 本家兄貴様 明治一四年一月

一通 〇四

讓一札 明治一四

一通 〇五

分家讓請一札 吉野利兵衛 御親父宛 明治一五年三月一五日

一通 〇三

形見讓請確証 分宅、久兵衛 本家、兄貴宛 明治一六年九月

一通 〇三

本家永統定

一通 〇〇

通

〔平井小橋屋呉服店通〕 平井利兵衛 明治三一年一月

一冊 〇五

〔呉服太物通〕 酒井和吉 明治三一年一月

一冊 〇五

〔呉服太物通〕 塩田伊之助 明治三一年一月

一冊 〇五

〔通〕 大野七兵衛 明治三二年一月

一冊 〇五

呉服太物通 白井久壽之助 吉野御氏宛 明治  
三二年六月〜七月 一冊 二五

〔呉服太物通〕 塩田伊之助 明治三四年一月  
〜二月 一冊 二六

〔太物商通〕 すがわや 明治三五年一月 一冊 二七

石灰薬之通 はいや喜六 吉野宛 明治三五年  
一月 一冊 二八

〔通〕 白井久壽之助 明治三五年一月〜九月 一冊 二九

〔通〕 谷野竹蔵 明治三五年一月〜二月 一冊 三〇

〔呉服太物通〕 いしかみ 明治三六年一月 一冊 三一

〔通〕 阿部萬治郎 明治三六年一月〜一〇月 一冊 三二

呉服太物通 白井久壽之助 吉野御氏宛 明治  
三六年七月〜九月 一冊 三三

〔履物通〕 藤澤商店 明治三六年一月〜二  
月 一冊 三四

〔莖木商店通〕 莖木亀次郎 明治三六年一月  
〜二月 一冊 三五

〔丹波屋呉服店〕 丹波屋呉服店 明治三六年  
一月〜二月 一冊 三六

〔平井小橋屋呉服店通〕 平井利兵衛 明治 一冊 三七

養子

養子証文之事 能勢郡稲地村、兄、石中利右衛  
門・弟、利助改名善三郎 吉野屋善兵衛・同伯  
父、茂兵衛宛 嘉永五年九月 一冊 三〇

養子証文之事 能勢郡、稲地村、兄、石中利右  
衛門・弟、利助改名、善三郎 吉の屋善兵衛・  
同伯父、茂兵衛宛 嘉永五年九月 一冊 三三

冠婚葬祭

仏事

仁譽義禪定門 文政七〔年〕七月一〇日 一綴 三〇

香譽貞薫智構禪定尼葬式 安政五〔年〕八月二  
九日 一冊 三一

礼譽智禪貞信禪定尼葬式 安政五〔年〕一〇月  
二八日 一冊 三二

香譽貞薫智構禪定尼様遺物控 安政六年七月 一冊 三三

大譽乘頓宗圓禪定門葬式控 明治七年一二月三  
日 一冊 三四

大譽乘頓宗圓禪定門遺物控 明治八年四月 一冊 三五

信譽芳香智礼禪定尼葬式控 明治一三年一〇月  
一日 一冊 三六

信譽芳香智礼禪定尼遺物差送り物控 明治一三  
年一月 一冊 三七

芳譽信含智艶禪定尼 明治一四年七月二六日 一冊 三八

超心寺月掛預り金控 吉野 明治二〇年七月一  
五日 一冊 三九

明禅院辨譽智山貞信禪定尼 明治二七年七月一  
一日 一冊 四〇

法 事		交 際	
法 事	一冊 七	交 際	一冊 五
婚 礼		名前替出銀控帳 吉野屋善兵衛 文政七年閏八月	一冊 五
おつせ嫁入諸事覚日記 文政六(年)九月	一冊 天	名前替出銀控帳 吉野屋茂兵衛 文政七年閏八月	一冊 五
別家中婚礼□控 文政九年九月	一冊 六	親類書	一通 五
おりう娘入嫁諸事覚日記 三木屋庄兵衛 天保二(年)九月	一冊 七	覚〔帳切振舞代〕 天王寺村、宗兵衛・丁ノ、東七	一通 三
祝義録 天保一二年四月	一冊 三	至 来 品	
祝義録 天保一二年四月	一冊 三	至来物の控 天保一二(年)四月	一冊 五
御祝儀 谷茂兵衛 谷禪兵衛宛 天保一三年二月	一冊 七	町内戸長役附三至来物之覚 明治五年一〇月七日	一冊 五
善三郎入嫁諸事覚日記 嘉永五年九月	一冊 六	教 養	
すえ女入嫁婚礼諸入用控帳 豊後屋 久兵衛宛 明治二年正月	一冊 六	經	
別家衆	一冊 六	いんくわきやう 和さん よしのやおうの宛 五月五日	一卷 二
諸入用并一買物控	一冊 六	伊勢參宮道中控 吉野屋善兵衛 文久二年三月一三日	一冊 三
寿 柳屋清兵衛宛	一冊 六	手 紙	
控〔御祝儀〕 大和屋善兵衛	一冊 六	手紙 九年半老舗 吉野善兵衛宛 昭和二年七月二日	一通 二
目録 三木屋庄兵衛宛	一冊 七		
親類書	一冊 七		



縁起

大蛇御済度縁起 積圓調 天保三年六月 一卷 一七

宗教

当麻山僧聖阿誌 よしのや 文化一三(年)七月 一卷 一〇

超心寺月掛金集帳 吉野善兵衛 明治一七年七月 一冊 三三

分家

分家

一札〔分家渡し金〕 久兵衛 本家兄宛 明治一二年一月 一通 二五一一

預り金確証 本家、善兵衛 分宅、久兵衛宛 明治一五年一月 一通 二五一五

証〔請取証〕 分宅、久兵衛 本家宛 明治一五年一二月三十一日 一通 二五一七

商売基手金讓確証 本家、善兵衛 分家、久兵衛宛 明治一五年 一通 二五二四

形見讓金請証 本家兄貴 分宅、久兵衛宛 明治一六年八月 一通 二五二二

形見分讓確証 本家、善右衛門 分家、久兵衛・同、すえ宛 明治一六年九月 一通 二五二五

預り金確証 吉野善兵衛 吉野久兵衛宛 明治二四年三月一日 一通 二五二六

訃

一札〔誤り一札〕 吉野利兵衛 御本家宛 明治二二年一月十九日 一通 三

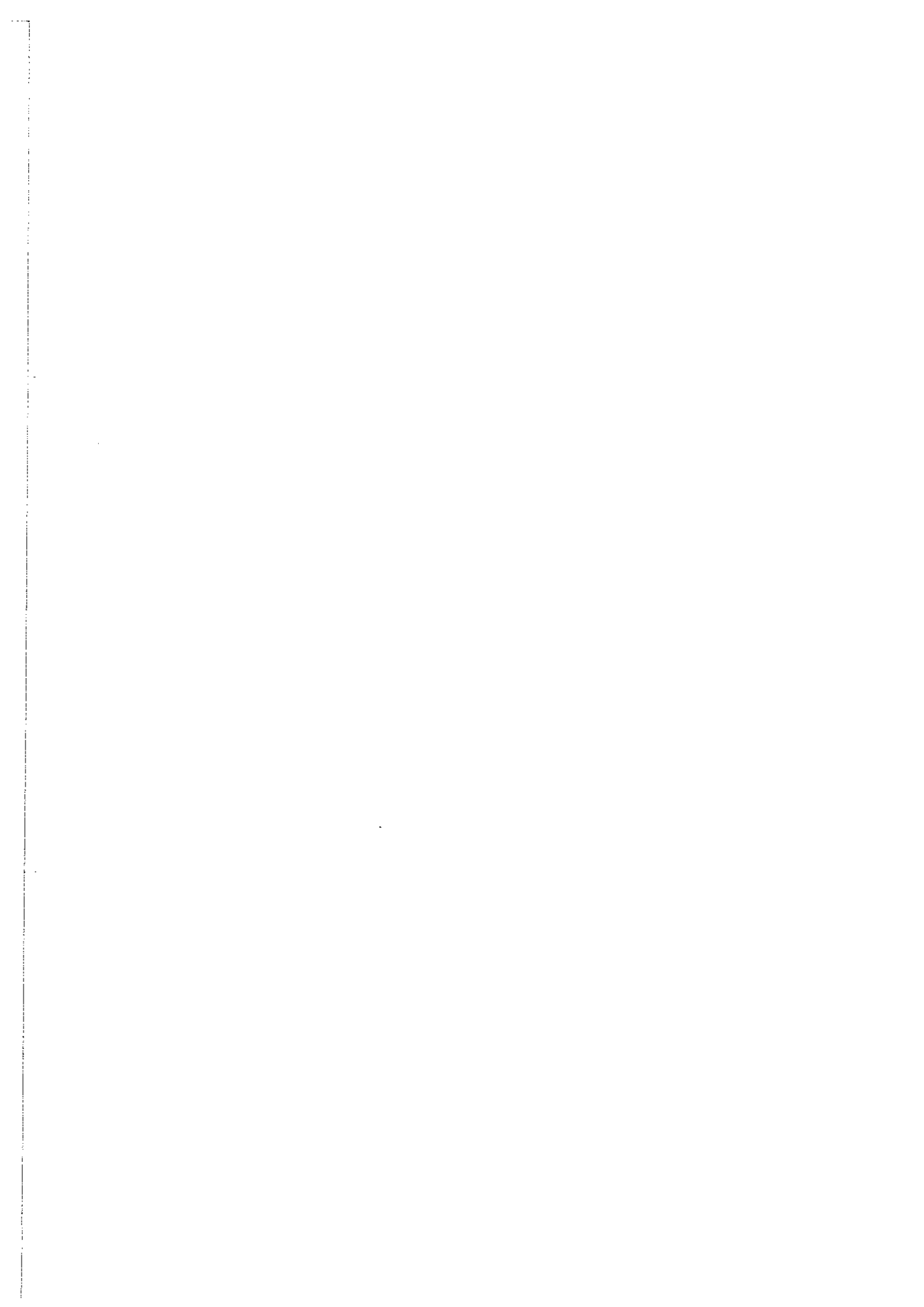
証〔利兵衛仲裁の件〕 吉野利兵衛 速見佐助・磯村市兵衛他二名宛 明治二二年一月十九日 一通 三

営業種目

定〔商法売捌品規則〕 本家 新宅、利兵衛・分宅、久兵衛宛 明治二一年一月二日 一通 三

口上〔商法種目の件〕 立会人、速見佐助・磯村市兵衛他五名宛 明治二二年一月十九日 一通 三

別紙定書説明書 本家 利兵衛分宅、久兵衛他二名宛 明治二二年二月 一通 三



京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書



# 分類項目表

## A 支配

1 支配 ..... 罍  
 支配・雛形・訴訟

## B 商売

2 筆 ..... 罍  
 筆

3 筆 ..... 罍  
 筆の注文・勝守筆・筆の納品・筆の受取・筆名前

4 筆毛 ..... 罍  
 筆毛師・筆毛集所・筆毛・筆毛撰・筆毛品・筆  
 毛買入・筆毛の注文・筆毛値段

5 筆墨問屋 ..... 罍  
 筆墨問屋

6 帳簿 ..... 罍  
 帳簿

7 内国勸業博覧会 ..... 罍  
 内国勸業博覧会

## C 金融

8 貸借 ..... 罍  
 借入金・引請証文・添証文之事・添証文一札之事・  
 質入・譲り・講・受領証・勘定書・手形・両替

## D 勝守陸奥

9 教養 ..... 罍  
 教養・宗教・心学・和歌・習字・儒教

10 町 ..... 罍  
 水帳・町

11 交際 ..... 罍  
 書状・買物・台の製作・勘定書・賄



# 京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書

## 支配

### 支配

### 支配

〔御触書〕	〔文化九年三月〕	一通	六
御請書	五十嵐徳三郎・前田喜助他一名	一冊	〇
御役人中宛	文化十一年一〇月二五日		
玉牒	正三位式部大輔菅原長親	一綴	二五
文政元年一二月			
上下京御朱印願書	上下京連印	御宛	文政元
年一二月		一冊	六
乍恐奉願上御口上書	〔青銅一貫文獻上〕	御筆	一通
細工人、勝守陸奥	御奉行宛	文政一三年一二月	一
宰相様御通行御供帳	安政二年一〇月八日	一冊	五
三郎様御上京御徒帳	勝守陸奥大椽	文久三年三月	一冊
御所御用入置員教御道メ諸記	大政官代御用日記	〔慶応三年〕九月	一冊
〔明治元年〕七月			五
公卿鏡	勝守達三郎	慶応四年三月	一冊
			一

支配

使口上〔西地方御役所へ出頭命令〕	近江屋九	一通	天
兵衛 西御役所宛	寅一〇月二二日		
乍恐奉願上候口上書	〔筆の取次所の取締〕	御	一通
用御筆司	御奉行宛	八月一九日	五
琉球人名前帳	勝守陸奥		一通
〔伏見へ少将様御通行〕			一通
琉球人御付御名前帳	勝守陸奥		一通
日光御神忌ニ付調進浜岡道泉子御贈徑ノ御箱并	御中筈図書		一通
御中筈図書			六
八月十八日お地方御役所被仰渡之覚			一通
〔御役所出勤に付き問答〕			一通
乍恐奉願口上覚			一通
乍恐口上書〔商売の件は手代に申付候〕	御用		一通
御筆師勝守陸奥	西御奉行宛		一通
乍恐奉願上候口上書	勝守	御奉行宛	一通
乍恐御請書〔不調法の段〕			一通
雛形			一通
〔奉行所宛書簡下書〕	御奉行宛		一通
乍恐奉願上候口上所	御宛		一通
			三

三

訴訟

乍恐御訴訟 師勝守陸奥	下長者町新町西入町、 御奉行宛 文化一四年一〇月	一年寄御筆	一通	二
乍恐御訴訟 師勝守陸奥	下長者町新町西入町、 御奉行宛 文化一四年一〇月	一年寄御筆	一通	器
乍恐御訴訟〔元利返済の件〕 入町、 一四年一〇月	下長者町新町西 御奉行宛 文化	一年寄御筆	一通	六
乍恐御訴訟〔元利返済の件〕 入町、 一四年一〇月	下長者町新町西 御奉行宛 文化	一年寄御筆	一通	六

商売

革

革

勝武革之御物 致知 文政八年四月五日	一冊	二
覚〔毛付鹿荒皮六十七枚を請取〕 石川屋卯七衛門・石川屋安兵衛他一名 勝守陸奥宛 天保二〔年〕四月二十九日	一通	六
乍恐奉願上候口上 天保四年	一通	金
白革師へ申談候口上覚 勝守陸奥 午一一日	一通	六
当委事八組より可申入候 佐兵衛 御旦那宛 酉一〇月二四日	一通	七
〔鹿・毛・荒皮等についての質疑問答〕	一通	六

筆

筆の注文

乍恐御届書 京都御筆細工人、勝守陸奥 文政一三年正月二十九日	一通	七
〔うの毛の筆注文〕 永□ 勝守宛 卯月六日	一通	七
注文 片口壮右衛門 勝守陸奥宛 酉五月二十九日	一通	六
注文 土持源兵衛 勝守陸奥宛 八月二十九日	一通	七
書状〔わずかばかりの注文品のお願ひ〕 土持孫兵衛 勝守陸奥宛 八月二十九日	一通	七
覚〔注文〕 王川省左衛門 勝守宛 一〇月二十三日	一通	六
〔注文〕 柿本彦左衛門納掛り 勝守宛 一〇月二十三日	一通	六
書状〔川内茂八様の注文お頼み〕 平野屋庄助 京都、勝守様御衆中宛 一一月二十五日	一通	六
おぼへ〔注文〕 うの木 勝守陸奥宛 一一月	一通	六
〔古節一対注文〕 次郎兵衛 三〇	一通	六
勝守筆		
諸筆員数取調控 勝守表 明治二年八月一三日	一冊	七
〔明治三〕年七月一九日	一冊	七
諸筆員数取調控 勝守表 明治三年七月一九日	一冊	六
〔明治四〕年八月七日		



諸筆員数取調并年勘定控 七日〔明治五〕年一九日	勝守表	明治四年八月	一冊	壹
〔勝守筆之儀〕近年出来方不宣二付〕 勝守陸奥江宛 三月	御納戸		一通	壹
覚〔在庫調べ〕 閏六月二十六日	〓 〓 かつもり陸奥宛		一通	三六
書状〔勝守筆について〕 六月二十八日	左兵衛 勝且那宛		一通	三六
書状〔筆の在庫確認〕 奥宛 一〇月二十八日	黒川次郎兵衛 勝守陸奥宛		一通	三六
書状〔出荷の件〕 一二月二十四日	黒川次兵衛 勝守陸奥宛		一通	三六
〔御筆生産につき出精〕			一通	三六
筆の納品			一通	三六
乍恐奉願上候口上書 御納戸宛 文政一二年一二月	御筆細工人、勝守陸奥		一通	六
乍恐御請書 文政一三年六月	御筆細工人、勝守陸奥 御納戸宛		一通	六
覚〔筆の納品〕			一通	三六
筆の受取			一通	三六
乍恐奉願上候口上書 天保二年一月	御筆細工人 御奉行宛		一通	六
〔勝守筆代銀の件につき直々に相渡〕 一三日	戊二月 戊三月		一通	三六
〔品物受取書〕 一三日	勝守陸奥 御役所宛	戊三月	一通	三六

筆・筆毛

書状〔筆六十対の代銀支払〕 もり宛 二月九日	大〓隠居 かつ		一通	三六
書状〔筆を受取り、代銀支払の件〕 かつもり宛 二月一日	大〓隠居		一通	三六
筆名前				
御用御筆下細工人名前帳 〔寛政一二年一月〕			一通	三六
乍恐御尋書〔仕入方下細工人、手当銀の事について〕			一通	三六
筆毛				
筆毛師				
〔筆毛仲間定〕 月	惣筆毛仲間	文化三〔年〕正	一通	六
御用御筆毛師仲間取締一札 塩町二丁目御用御筆毛取次他	惣筆毛師仲間、 文化三年二月		一冊	二九一
筆毛師中一札写 丁目、綿屋伊右衛門・掃磨屋新左衛門他一五名	大坂惣筆毛師仲間、塩町二 勝守陸奥宛 文政三年正月		一冊	二九一
乍恐御断書 〔文政一〇年六月〕			一通	三六
京大坂取調方一件覚〔筆毛〕 大坂筆毛師一件覚	天保七年五月 一〇月二三日、一月一五日		一冊 四枚	六 三六
〔製法仕入之儀〕付私方奉調進之御用御筆毛も 大阪表筆毛師一同下細工申付有之儀			一通	三六

三六

乍恐口上〔御筆毛の延引〕 安土町三丁目、小  
林屋藤兵衛 御宛 一通 三〇

次第〔筆毛師共答を申す〕 一通 三六

乍恐口上書〔筆毛師〕 一通 四〇

乍恐御答書〔筆毛師〕 一通 四六

筆毛集所

嶋毛切出候撰州川辺郡火打村取締方仕方帳撰  
州川辺郡火打村 庄屋新四郎・同太兵衛 文政  
一三年九月二十七日 一通 五〇

乍恐御届書〔御用筆毛集所〕 京都御筆細工人  
勝守陸奥 御奉行宛 文政一三年正月二十九日 一通 五六

乍恐御届書〔荒川屋市右衛門方が御用御筆毛集  
所〕 京都御筆細工人、勝守陸奥宛 文政一三  
年正月二十九日 一通 六二

乍恐御答書 勝守 御奉行宛 一通 六八

御用御筆毛集方仕法 一通 七四

筆毛

然御尋以書付申上候 御用御筆細工人勝守陸奥  
御奉行宛 文化元年五月 一冊 二五

乍恐御改書 御筆細工人、勝守陸奥 御納戸  
文政一〇年六月 一冊 二六

乍恐奉願上候口上書〔筆毛になる毛付荒皮〕  
御筆細工人〔勝守陸奥〕 天保四年五月 一冊 二七

乍恐奉願上候口上書〔筆毛になる毛付荒皮〕  
京都筆細工人勝守陸奥 御奉行宛 天保四年六  
月 一冊 二八

就御尋口上書〔毛品相撰不用之分は目印を付〕 一通 三〇

筆毛撰

乍恐御届書〔筆毛撰〕 京都御筆細工人、勝守  
陸奥 文政一二年正月二十四日 一通 三六

書状〔御用毛一覽〕 小林や藤兵衛 勝守陸奥  
宛 二月二〇日 一通 四二

書状〔御用筆毛師書上〕 御用筆毛撰所 当年  
行司、小林屋和助・播磨屋治助宛 四月二十七日 一通 四八

乍恐奉願上候口上書 一通 五四

〔大阪表三而御用筆毛撰び品を取建御用二可相  
成品撰立〕 一通 六〇

〔筆毛類取扱候ものは御用御筆毛撰濟候〕 御  
用勝守筆師勝守陸奥 一通 六六

筆毛品

然御尋口上書〔目印之儀〕 御筆細工人勝守陸  
奥 御奉行宛 文政一一年正月 一通 七二

乍恐奉願上候口上書 御筆細工人、勝守陸奥  
西御丸御納戸宛 文政一二年八月 一通 七八

乍恐奉願上候口上書 御奉行宛 文政一三年二  
月 一通 八四

就御尋奉申上候口上書 勝守陸奥 文政一三年  
閏三月 一通 九〇

就御尋奉申上候口上書 勝守陸奥 文政一三年  
閏三月 一通 九六

乍恐御答書〔御筆毛買集、他の毛を混せて安く  
売る〕 奥 御宛 一通 一〇二

差入置一札之事 瀧三郎宛 文政一三年二月	勝守陸奥 筆師中惣代、岡村	一通	一六
差入一札之事 臨時急御用手当細工方天忍組筆師中、十一屋瀧三郎宛 文政一三年二月	下長者町金座西入丁、勝守陸奥	一通	一四
乍恐奉願上候口上書 御奉行宛 天保二年十一月	御筆細工人、勝守陸奥	一通	一五
乍恐奉願上候口上書 天保二年十一月	勝守陸奥 御奉行宛	一通	一七
乍恐御答書 天保二年二月	御筆細工人、勝守陸奥 御奉行宛	一通	一五
乍恐奉願上候口上書 寅七月	御筆細工人、勝守陸奥	一通	一三
〔京・大阪御奉行所へ御答書差上〕 大村佐吉宛 七月二〇日	勝守陸奥	一通	一三
乍恐奉願上候口上書	御宛	一通	一三
乍恐奉願上候口上書	御筆細工人勝守陸奥 御奉行宛	一通	一五
就御尋奉申上候口上書	陸奥	一通	一六
乍恐奉願上候口上書	勝守 御宛	一通	一六
<b>筆毛買入</b>			
上〔御用筆毛買入方之儀〕 守陸奥 御奉行宛 文政一三年五月	京都御筆細工人勝	一冊	一九
從江戸表御		一冊	一五

筆毛

<b>筆毛の注文</b>			
乍恐奉願上候口上書	勝守 御奉行宛	一通	一三
<b>筆毛値段</b>			
乍恐奉願上候口上書 御奉行宛 文化三年正月	御筆細工人、勝守陸奥	一通	一五
被仰渡御請証文之事 塩町二丁目 播磨屋新左衛門・小林屋伊八他 一七名 御奉行宛 文政一〇年二月九日	〔勝守陸奥之下値二而売渡〕	一冊	一七
中堅メ一札之事 政一〇年二月	大阪筆毛師 勝守陸奥宛 文	一通	一六
<b>〔御筆毛高値一件〕</b>			
乍恐書付を以御頼奉申上候		一枚	一五
<b>〔本方値段引下げ〕</b>			
乍恐奉願上候口上書 元方御納戸御頭衆中宛	筆御細工人、勝守陸奥	一通	一六
覚〔勝守古銀一対は金百疋〕	吉田銀左衛門	一通	一六
<b>筆墨問屋</b>			
<b>筆墨問屋</b>			
京都筆墨問屋連印 三年一二月	筆墨問屋、近江屋三郎兵衛 ・墨屋六右衛門他一〇名 勝守陸奥宛 文政一	一冊	二三
京都筆墨問屋差入一札印取帳 屋三郎兵衛・墨屋六右衛門他一名 勝守陸奥 宛 天保二年正月	筆墨問屋、近江	一冊	二三

七

帳簿

帳簿

諸勘定控 勝守表 明治二年八月〜〔明治三〕年七月一九日 一冊 〇

諸勘定控 勝守表 明治三年七月一九日〜〔明治四〕年八月七日 一冊 〇

金錢渡判取帳 上京第貳拾壹区武衛陣町、勝守陸之蒸 明治六年六月 一冊 〇

筆渡判取帳 上京第貳拾壹区武衛陣町、勝守陸之蒸 明治六年六月 一冊 〇

内国勸業博覧会

内国勸業博覧会

筆出品目錄 上京区第貳拾壹区武衛陣町、勝守類 京都府知事榎村正直殿代理、京都府大書記官国重正文宛 明治一三年二月六日 一冊 〇

第四回内国勸業博覧会出品解説書之下書 村嶋清香 明治二八年二月 一冊 〇

〔第四回勸業博覧会出品目錄〕 京都市上京区室町通榎木町上ル武衛陣町第八番戸、筆業、出品人勝守陸之蒸 一冊 〇

金融

貸借

借入金

乍恐奉願口上書〔銀五貫目十ヶ年賦拝借の件〕 勝守陸奥 御奉行宛 寛政六年 一通 〇

預り申銀子之事 大坂安土町三丁目、小林屋藤兵衛・伴藤九郎 寛政一二年一月 一通 〇

奉預御銀之事 丹州舟井郡八木村、七郎右衛門・同断同村弥右衛門他一名 勝守陸奥宛 文化五年六月 一通 〇

奉預り御銀之事 丹州桑田郡吉田村、定右衛門・忠左衛門他二名 勝守陸奥宛 文化五年閏六月 一通 〇

添証文一札之事 丹州桑田郡吉田村、定右衛門・忠左衛門他二名 勝守陸奥宛 文化五年閏六月 一通 〇

添証文一札之事 丹州桑田郡穴川村、作之蒸・栄次郎 勝守陸奥宛 文化五年閏六月 一通 〇

奉預り御銀之事 丹州桑田郡穴川村、作之蒸・栄次郎 勝守陸奥宛 文化五年閏六月 一通 〇

奉預御銀之事 丹州桑田郡吉田村、清助・徳右衛門他三名 勝守陸奥宛 文化五年一月二月 一通 〇

奉預御銀之事 丹州桑田郡吉田村、作之蒸・勘右衛門他一名 勝守陸奥宛 文化六年七月 一通 〇

奉預御銀之事 丹州桑田郡吉田村、作之蒸・勘右衛門他一名 勝守陸奥宛 文化六年七月 一通 〇

奉預御銀之事 丹州桑田郡吉田村、定右衛門・忠左衛門他二名 勝守陸奥宛 文化六年一月二月 一通 〇

奉預御銀之事 丹波桑田郡□□村、彦之進・新之蒸 勝守陸奥宛 文化七(年)一□月 一通 〇

預り申銀子之事 大坂安土町三丁目、小林屋藤兵衛 勝守陸奥宛 文化一二年九月 一通 〇

預り申証文之事 松屋万右衛門宛 天保九年八月	預り主・同万七・万座右衛門	一通	三〇
奉拝借御銀之事 御用御筆師村井陸奥 渡辺洋五郎・深谷平左衛門他六名宛 天保一一年一二月		一通	二七
預り申金子之事 香具屋源兵衛 木具屋弥左衛門・亀屋藤七他二名宛 嘉永三年七月		一通	二八
預り申金子之事 田中屋重兵衛 木具屋弥左衛門・亀屋藤七他三名宛 嘉永三年七月		一通	二九
預り申金子之事 海老屋利右衛門 木具屋弥左衛門・亀屋藤七他二名宛 嘉永三年七月		一通	三〇
預り申金子之事 木具屋弥左衛門 亀屋藤七・村井利助他二名宛 嘉永三年七月		一通	三一
預り申金子之事 指物屋喜兵衛 木具屋弥左衛門・亀屋藤七宛 嘉永三年七月		一通	三二
預り申金子之事 海老屋利右衛門 嘉永三年七月		一通	三三
預り申一札之事 灰屋佐助 香具屋源兵衛・村井陸奥宛 嘉永三年一〇月		一通	三四
預り申金子之事 八木喜兵衛 御当番熊谷近江・村井陸奥宛 嘉永三年一二月		一通	三五
覚〔借用証〕 田中屋十兵衛 当番熊谷近江・村井陸奥宛 嘉永三年一二月		一通	三六
奉預金子之事 柳馬場竹屋町下町、木綿屋吉兵衛・同町筆屋久兵衛 福井筑前・熊谷近江他三名宛 嘉永三年一二月		一通	三七
覚〔預申金子之事〕 熊谷近江大椽 福井筑前大椽・村井陸奥大椽他二名宛 嘉永三年一二月		一通	三八

貸借

預申金子之事 熊谷近江大椽 福井筑前大椽・村井陸奥大椽他二名宛 嘉永四年二月		一通	三九
奉預御金之事 御前通新田丁西入、高田弥尾・蔵屋町油小路東入、丹後屋清助 嵯峨御所御貸付所 嘉永四年三月		一通	四〇
預申金子之事 熊谷近江 御当番河合播磨・三宅利右衛門宛 嘉永四年四月		一通	四一
奉預御金之事 下長者町東江入、斎藤栄元・母安貞他二名 嵯峨御所御貸付所 嘉永四年一二月		一通	四二
奉預御金之事 清水四町目、坂口屋内起・岩山通松原上ル町、石津屋由兵衛 嵯峨御所御貸付所 嘉永四年一二月		一通	四三
奉預御金之事 竹屋町通油小路西入町、上総屋丑之助・妻ふさ他三名 嵯峨御所御貸付所 嘉永四年一二月		一通	四四
奉預御金之事 城州葛野郡川嶋村、瓦屋半右衛門・母かや他三名 嵯峨御所御貸付所 嘉永四年一二月		一通	四五
奉預御金之事 三輪清左衛門組、小嶋常之進・伏見組、勝嶋義一郎他一名 嵯峨御所御貸付所 嘉永五年四月		一通	四六
奉預御金之事 油小路橋木町上ル、近江屋きぬ・伴佐吉 嵯峨御所御貸付所 嘉永五年四月		一通	四七
證〔借入金〕 野路井刑部門 村井陸奥宛 嘉永五年七月二六日		一通	四八
証札〔借用金〕 安門御内河野淡路守、御門前月見町、証人 河野のふ 嵯峨御所御勘定所宛 嘉永五年九月		一通	四九

四

奉預御金之事 ・同州下津町、 所御貸付所宛 嘉永五年一〇月	城州淀池之上町、大黒屋平兵衛 田葉粉屋寅次郎他二名 嘉永五年一〇月	一 通	三五
奉預御金之高 元・母安貞他二名 五年一〇月	下長者町新町東へ入町、斎藤榮 嵯峨御所御貸付所宛 嘉永五年一〇月	一 通	三〇
奉預御金之事 衛・一条通大宮西入町 御貸付所宛 嘉永五年一〇月	一条通浄福寺西入町、壹屋利兵衛 壹屋惣五郎 嵯峨御所	一 通	二九
奉預御金之事 右衛門・同町 宛 嘉永五年一〇月	室町通中立売上ル町、笹菱屋長 舟木屋宗次 嵯峨御所御貸付所	一 通	三〇
奉預御金之事 三条上ル町、橋屋 嘉永五年一〇月	北嵯峨村、百姓助兵衛・烏丸通 嵯峨御所御貸付所	一 通	三〇
奉預御金之事 衛門・寺町通二 御所御貸付所宛 嘉永六年九月	姥屋町通三条上ル町、松屋方右 下ル町、堺屋五郎兵衛 嵯峨御所御貸付所宛	一 通	三〇
覚〔借用金〕 所宛 嘉永六年〔年〕一〇月一三日	松尾方右衛門 嵯峨御所御貸付所宛	一 通	三三
奉拝借御金之事 喜助 嘉永七年六月五日	城州紀伊郡深草村、拝借人小 西七左衛門・京都萬壽寺高倉西入請人、井筒屋 嵯峨御所御貸付所宛	一 通	三三
証〔借用証〕 兵衛宛 嘉永五年八月	田中左内 村井陸奥・香具屋源	一 通	三三
請取申銀子之事 年九月	村井陸奥 御納戸宛 廣応元	一 通	三三
覚〔借用一件〕 已九月二二日		一 通	三三

書状〔借用切月相滞り〕 喜多弥平十郎 下長  
者町西洞院東へ入、勝守陸奥宛 九月七日 一通 三三

引請証文

一札〔引請証文〕 姥屋丁通三条上ル町、松屋  
万七郎 嵯峨御所御貸付所宛 嘉永五年四月 一通 三三

添証文之事

添証文之事 清水四町目、坂口屋由起、岩上通  
松原上ル町、石津屋由兵衛 嵯峨御所御貸付所  
宛 嘉永四年一二月 一通 三〇

添証文之事 竹屋町通油小路西入町、上総屋丑  
之助・妻 ぶさ他四名 嵯峨御所御貸付所宛  
嘉永四年一二月 一通 三〇

添証文之事 城州葛野郡川嶋村、瓦屋半右衛門  
・母かや他四名 嵯峨御所御貸付所宛 嘉永四  
年一二月 一通 三〇

添証文之事 斎藤栄元・母安貞他二名 嵯峨御  
所御貸付所宛 〔嘉永四年〕 一通 三三

添証文之事 三輪清左衛門組、小嶋常之進・伏  
見組、勝嶋義一郎他一名 嵯峨御所御貸付所宛  
嘉永五年四月 一通 三三

添証文之事 近江屋きぬ・梓佐吉 嵯峨御所御  
貸付所宛 嘉永五年四月 一通 三三

添証文之事 室町通中立売上ル町、笹菱屋長右  
衛門・同町、舟木屋宗次 嵯峨御所御貸付所宛  
嘉永五年一〇月 一通 三〇

添証文之事 城州淀池之上町、大黒屋平兵衛・  
同所下津町、田葉粉屋寅次郎他二名 嵯峨御所  
御貸付所宛 嘉永五年一〇月 一通 三三

添証文之事 一条通淨福寺西入町、壺屋利兵衛  
・一条通大宮西入町、壺屋惣五郎 嵯峨御所御  
貸付所宛 嘉永五年一〇月 一通 一六

添証文之事 斎藤栄元・母安貞他二名 嵯峨御  
所御貸付所宛 嘉永五年一〇月 一通 一六

添証文之事 北嵯峨村、百姓勘兵衛・烏丸通三  
条上ル町、橋屋安兵衛 嵯峨御所御貸付所宛  
嘉永五年一二月 一通 一五

添証文之事 越屋町通三条上ル町、松屋万右衛  
門・寺町通二条下ル町堺屋五郎兵衛 嵯峨御所  
御貸付所宛 嘉永六年九月 一通 一六

添証文一札之事

添証文一札之事 丹州舟井郡八木村、七郎右衛  
門・同断八木村、弥右衛門他一名 勝守陸奥宛  
文化五年六月 一通 一五

添証文一札之事 丹州桑田郡吉田村、清助・徳  
右衛門他三名 勝守陸奥宛 文化五年一二月 一通 一五

添証文一札之事 丹州桑田郡吉田村、作之蒸・  
勘右衛門他一名 勝守陸奥宛 文化六年七月 一通 一五

添証文一札之事 丹州桑田郡 勝守陸奥宛 文  
化六年一二月 一通 一五

添証文一札之事 丹波桑田郡芦山村、彦之進・  
新之蒸他一名 勝守陸奥宛 文化七年一二月 一通 一五

質入

譲り渡申田地之事 譲り主七町目、住吉屋勘左  
衛門・証人八町目、柴屋太兵衛 小西豊前宛  
文政七年一二月 一通 一五

永代譲り渡申田地之事 観空寺村、譲り主彦次  
郎・小洲村親類惣代 千次郎 京寺町通二条上  
ル、菱屋熊之助・石塚熊次郎宛 一通 一六

譲り

譲券一札 譲り主福嶋屋作兵衛・証人北嵯峨村  
□惣左衛門 北嵯峨村芝勘兵衛宛 嘉永二年  
二月 一通 一五

譲券一札 譲り主福嶋屋作兵衛・証人北嵯峨村  
□惣左衛門 北嵯峨村芝勘兵衛宛 嘉永二年  
二月 一通 一五

講

一札〔御講〕 御講懸り、政田喜藤太・村田多  
門他三名 田中重兵衛・河合播磨他六名宛 嘉  
永三年六月 一通 一六

奉差上置候一件 田中重兵衛・河合播磨他六名  
御名宛 嘉永三年六月 一通 一六

一札〔月金式朱掛講〕 河合仁右衛門 木具屋  
弥左衛門・亀屋藤七他三名宛 嘉永三年七月 一通 一五

一札〔月金式朱掛講〕 福井筑前 熊谷近江・  
村井陸奥他二名宛 嘉永三年 一通 一六

一札〔引請一札証文〕 熊谷近江 村井陸奥・  
福井筑前他二名宛 一通 一五

証〔借用証〕 御講懸り、田中左内・御用所、  
角倉出雲他一名 北野御講世話方中宛 嘉永四  
年七月 一通 一五

奉拝借金子之事 烏丸通下立売上町、駿河屋半  
七 嵯峨御所御講世話方中宛 嘉永五年正月 一通 一五

一札〔借用金〕 嵯峨御所御内、借り主石塚主馬・請人福井筑前 御米然二十五日講、御世話方中宛 嘉永五年三月 一通 一七

添証文之事 小野可嶋 鶴組御講御世話方中宛 嘉永五年九月 一通 一七

証札 村田多門 二十五日御講組、御世話方宛 嘉永五年一二月 一通 一三

覚〔お講の金の請取〕 田中左内 香具屋源兵衛・八木肥後宛 戌一〇月五日 一通 一三

書状〔拝借金一件〕 田中平次・村松兵五郎 嵯峨御所御講御世話方、村井陸奥大椽宛 九月二四日 一通 一七

書状〔嵯峨御所御講一七会目〕 北野、陵和院 嵯峨御所御講掛り御世話方中宛 九月二六日 一通 一七

覚〔お講の金の請取〕 田中左内 御世話方中、田中屋重兵衛宛 一月二六日 一通 一三

受領証

覚〔受領証〕 斎藤栄元・母安貞他二名 嵯峨御所御貸付所宛 〔嘉永四年〕一二月 一通 一七

覚〔受領証〕 斎藤栄元・母安貞他二名 嵯峨御所御貸付所宛 一通 一七

覚〔お金受取〕 田中□太 村井陸奥宛 午一二月二一日 一通 一七

覚〔受領証〕 福井筑前 田中源兵衛・八木喜兵衛宛 戌九月二九日 一通 一七

勘定書

覚〔個人貸付金利入勘定書〕 文化一三〔年〕九月一〇日 一通 一七

手形

〔金拾兩御手形一通〕 嵯峨御所出張所 村井陸奥宛 丙辰正月一二日 一通 一七

覚〔金拾兩手形〕 角倉出雲・細川右馬亮 村井陸奥宛 丑六月二〇日 一通 一七

両替

正徳年中金銀吹替え儀二付御触写 〔正徳四年五月一五日〕 一通 一八

勝守陸奥

教養

教養

愚答 文政九年四月二六日 一冊 一七

猿法語拾遺 よし中 文政一二年四月 一冊 一七

斎家論序愚解 よし中 文政一二年〔年〕六月三日 一冊 一七

埼得記 〔小倉教中〕 〔文政一二年〕六月二〇日 一冊 一七

さとのに談抄 致中 文政一二〔年〕 一冊 一七



さとのに談抄 〔小倉佐兵衛〕致中 年正月二十六日	文政一三	一冊	一頁
〔魂〕 小倉致中 天保三年二月五日	一折	一冊	三
〔修身〕	一冊	一冊	五
身心ふたつあらざるの弁	一冊	一冊	五
伝理千字文	一折	一冊	三
諷誦文 村井理助	一折	一冊	三
〔石田勘平先生〕	一折	一冊	三
中臣稜	一冊	一冊	四
大成至聖文宣王八	一折	一冊	二
庚申記	一折	一冊	四
〔大人〕	一冊	一冊	七
発語	一冊	一冊	〇
致知格物	一冊	一冊	三
小人問居	一冊	一冊	七
開眼録 よし中	一冊	一冊	六
御身拭	一冊	一冊	四
三光之巻	一折	一冊	三
開眼録	一冊	一冊	五
札入はなし	一冊	一冊	六
養生訓	一冊	一冊	六

崎得之記 よし中	一冊	一冊	三
福田又右衛門道徳先生崎得記	一冊	一冊	六
算蔓講義解釈	一折	一冊	四
宗 教			
仏家諸ニワカレ 大塚 閏一二月一三日禪師	一通	一冊	四
禪師	一冊	一冊	三
圓光大師御伝編年略	一冊	一冊	六
仏法伝来	一折	一冊	〇
法相宗とは何そや	一折	一冊	三
浄土門 下巻	一折	一冊	三
〔禅宗とは何そや〕	一折	一冊	三
本願寺聖人親鸞伝記之写	一折	一冊	三
〔観無量寿経〕	一折	一冊	三
〔仏〕	一冊	一冊	三
王右軍華経	一綴	一冊	三
浅賀大人冬至に孔夫子の正像を祭り献酒し玉ふ 付梅の抄条をさして備へ玉ふことをききて	一通	一冊	三
御金印	一通	一冊	三
〔浄土真宗〕	一卷	一冊	三
心 学			
〔石田梅岩〕	一折	一冊	三

〔石田先生〕 上嶋清兵衛

〔石田先生〕

〔石田梅岩〕

〔石田先生〕

〔石田先生〕

和歌

〔田子〕 富岡先生御歌集 戊戌二月

〔小野小町〕

拾遺

拾遺集

〔和歌〕

拾遺

習字

〔習字手本〕

〔習字手本〕 村井辰之助

儒教

〔孟子〕

学庸

中庸

〔易〕

中庸二十二章

〔中庸〕

中庸十八章

仁

中庸三十三章

〔孟子〕

小学

町

水帳

就御尋口上書 下長者町西洞院東江入町、年寄伊兵衛・五人組、平四郎他一名 御奉行所宛 天保八年二月二日

就御尋上書 新町出水上町、年寄利助・五人組、文作他一名宛 天保八年二月二日

〔勝守陸奥購入家屋敷図面〕 年寄利助・五人組、文作他一名 御奉行宛 天保八年二月二日

〔下長者町水帳断簡〕

町

日並〔塩町へ一同寄合いたし候〕 九月一五日

覚〔家賃取集置御下知〕 年寄、利助・借屋若山屋善助他二名 御奉行宛 天保八年二月二日

〔規程〕 花車連中、大文字屋吉兵衛・菱屋新兵衛他六名 大文字屋弥兵衛・佐兵衛他二九名  
宛 明和八〔年〕五月二一〔日〕 一卷 二七

交 際

書 状

書状〔手当なき件〕 久米蔵 御旦那宛 五月 一通 二六  
二五日

書状〔金沢様怒井様の御礼〕 久米蔵 御旦那 一通 二六  
宛 六月一〇日

書状 中江右衛門 熊谷近江宛 六月二六日 一通 二七

書状〔地震お見舞〕 宅より 陸奥宛 七月八日 一通 二五

書状〔猶々御家内様へ宣敷仰上被下候〕 次兵衛 陸奥守旦那宛 十一月二日 一通 二五

書状〔私信〕 一通 二五

買 物

勝守陸奥買物品 一〇月二八日 一通 二七

勝守陸奥買物品 十一月三日 一通 二六

台の製作

〔台の製作〕 勝守陸奥 不具屋庄兵衛宛 八月二六日 一通 二五

勘 定 書

覚〔勘定書〕 吉田村、作之蒸・忠兵衛他一名 一通 二六

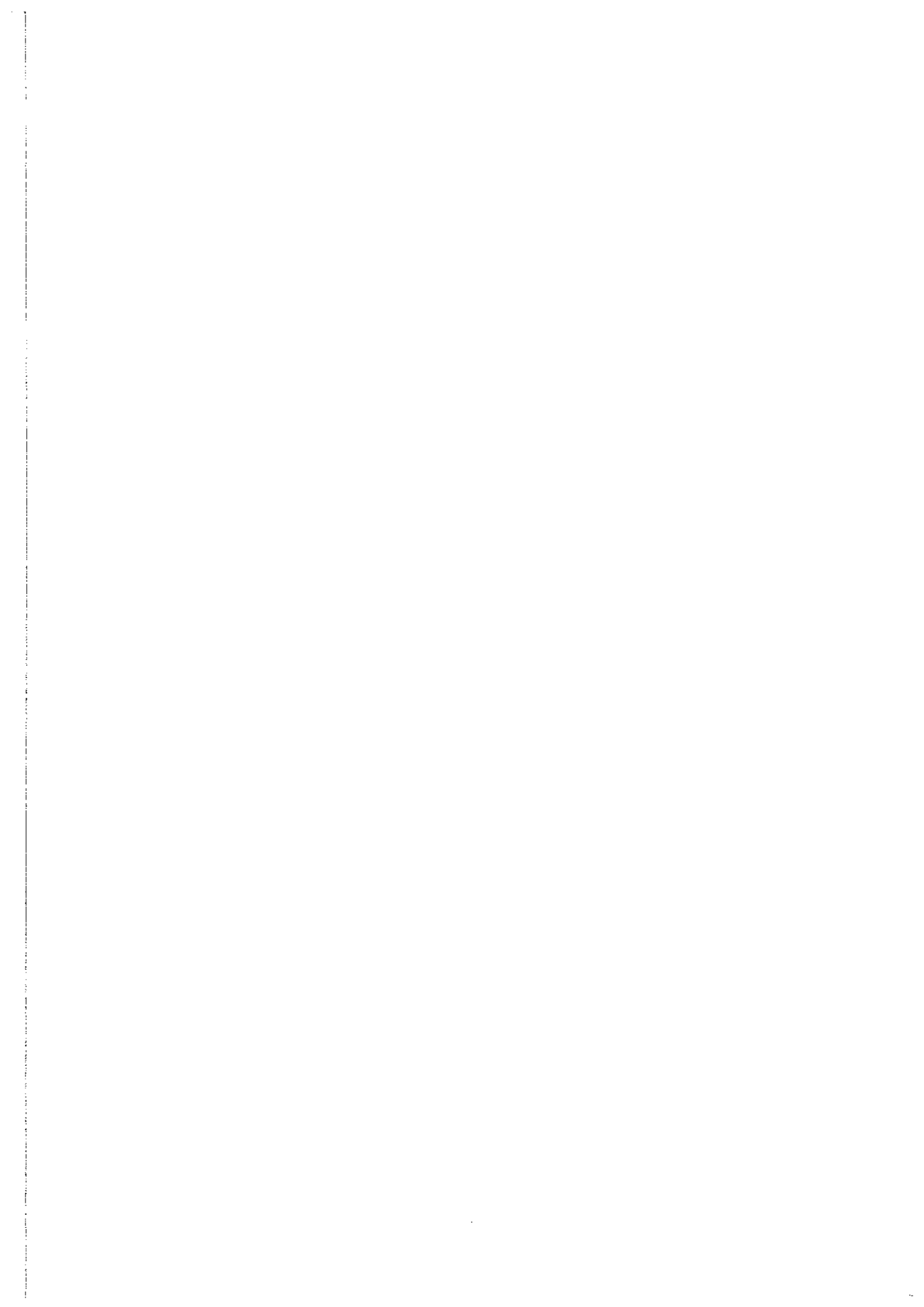
覚〔勘定書〕 吉田村、作之蒸・勘右工門 一冊 二六

覚〔勘定書〕 吉田、作之蒸・勘右衛門他一名 一通 二六

賄

〔飯料いただき候〕 延印 四月一日 一通 二五

子供衆兩人共金田氏引請 一通 二五



梶野家文書目錄



# 分類項目表

## A 商 売

- 1 年貢 ..... 空
- 年貢通・年貢料・年貢請取之通・年貢勘定目録・  
検見
- 2 小作 ..... 空
- 小作証文・畑明細
- 3 綿 ..... 空
- 繰綿・実綿・玉綿・綿
- 4 質 ..... 空
- 質・質物証文・質流・利銀請証文・質屋
- 5 貸家 ..... 空
- 貸家・貸家証文
- 6 借家 ..... 空
- 借家・借家請状
- 7 家賃 ..... 空
- 家賃之通・家賃未納・家賃請取証・家賃受取
- 8 売渡 ..... 空
- 建家・土蔵・畑地・地所・地券書換手数料
- 9 支配 ..... 空
- 支配・訴訟・登記

## B 支 配

## C 金 融

- 10 税 ..... 空
- 租税通・通知書・租税請取通・地租・町税
- 11 相場 ..... 空
- 相場書
- 12 借入 ..... 空
- 油粕借用・借用・年賦証文・金融・その他借用
- 13 宗教 ..... 空
- 神社・寄進
- 14 社会 ..... 空
- 学校・社会一般
- 15 町 ..... 空
- 秤改め・料理勘定書・勘定・集金・広報・祝儀・交際・平野軒数書上・町費用・材料費・人足賃・不納分・口達・口演・油粕受取書・受取書・寄合・葉・奉納銀・廻状・その他

## D 社 会

## E 人 別

- 16 人別 ..... 空
- 人別・奉公人請状・日傭賃・給料・その他

F 梶野家

17書類	.....	三
請求書・納品書・受取書・通	.....	三
18家	.....	三
曆・家・教養・雑	.....	三



# 梶野家文書目録

## 商 売

### 年 貢

#### 年 貢 通

未御年貢請取通 政六年	竹洩 かじや清右衛門宛	安	一通	三〇
御年貢之通	市町、梶野平右衛門	万延元〔年〕	一通	三二
亥御年貢之通	鞍作村、庄屋、鉄三郎 清右衛門宛	文久三年一月二六日	一通	三六
亥年御年貢之通	今在家村、市町かじやうの宛	文久三〔年〕一月八日	一通	三一
亥年御年貢之通	新在家村、市町かじやうの宛	文久三〔年〕一月八日	一通	三一
御年貢之通	野堂町、市町梶屋平右衛門・同平兵衛宛	文久三〔年〕一月八日	一通	三〇
亥年御年貢之通	市町 梶野平右衛門宛	文久三〔年〕一月八日	一通	三二
亥年御年貢之通	市町 文久三〔年〕一月八日		一通	三三
亥年御年貢之通	市町 梶野平兵衛宛	文久三〔年〕一月八日	一通	三三

年貢

亥御年貢通	鞍作村、庄屋、五兵衛 平野郷、平右衛門宛	文久三年	一通	三七
御年貢之通	市町 梶野平右衛門宛	元治元〔年〕一月八日	一通	三六
御年貢之通	市町 梶野平兵衛宛	元治元〔年〕一月八日	一通	三七
子年御年貢之通	新在家村 市町、梶屋うの宛	元治元〔年〕	一通	三六
御年貢之通	野堂町 市町、梶屋平右衛門・平兵衛宛	元治元年	一通	三五
子御年貢上納之通	鞍作村、庄屋、専之助 平野郷、平右衛門宛	元治元年一月	一通	三五
丑年御年貢通	市町 後十日講宛	慶応元〔年〕一月八日	一綴	三七六
丑年御年貢通	市町 梶屋平兵衛宛	慶応元〔年〕一月八日	一綴	三七五
丑年御年貢通	市町 梶屋平右衛門宛	慶応元〔年〕一月八日	一綴	三七四
御年貢之通	野堂町 市町、梶屋平右衛門・平兵衛宛	慶応元〔年〕一月八日	一綴	三七三
御年貢通	今在家村 市町、うの宛	慶応元年一月八日	一綴	三七二

二

丑御年貢請取通 竹瀨 かじや清右衛門宛 慶  
応元年 一通 三六

〔正覚寺村御年貢〕 明治二年 一通 三六

御年貢之通 野堂町、市町、梶屋平右衛門・平  
兵衛 明治三〔年〕一二月八日 二通 三三

御年貢之通 野堂町 市町、梶野平右衛門・平  
兵衛宛 明治四年 一通 三〇

御年貢之通 市町 子一二月八日 一通 三二

御年貢之通 新在家村 市町、鍛冶屋うの宛  
丑年一二月八日 一綴 三七一

亥御年貢通 正覚寺村、庄屋、平埜歎三郎 梶  
屋清兵衛宛 亥一二月一二日 一通 三六八

丑御年貢通 正覚寺村、庄屋見習、瀧三郎・庄  
屋、平埜歎三郎 梶屋平右衛門宛 一二月一四  
日 一通 三三

亥御年貢通 正覚寺村、庄屋、多三郎・大庄屋  
並、中谷亀右衛門 鍛冶屋平右衛門宛 一二月  
一六日 一通 三一九

子御年貢通 正覚寺村、庄屋、多三郎 梶屋清  
右衛門宛 一二月一七日 一通 三〇

未御年貢之通 正覚寺村、庄屋、中谷多三郎  
鍛冶屋平右衛門宛 一二月二五日 一通 三〇

未御年貢通 正覚寺村、庄屋、平埜瀧三郎 鍛  
冶屋平右衛門宛 一二月二五日 一通 三〇

己御年貢打出し控 一通 三六

子御年貢通 正覚寺村、庄屋、平埜歎三郎 か  
じや平右衛門宛 一通 三〇

御年貢過上金 一通 三五

年貢料

御年貢過米進附出し帳 市町 安政六年一二月 一通 三六

〔年貢料〕 卯七月 一通 三〇

年貢請取之通

亥御年貢請取通 竹瀨 かじや清右衛門宛 文  
久三年 一通 三六三

子御年貢請取通 鞍作村、庄屋、鉄三郎 平野  
郷、清右衛門宛 元治元年 一通 三六四

丑御年貢請取之通 鞍作村、庄屋、鉄三郎 平  
野郷、清右衛門宛 慶応元年 一通 三六五

年貢勘定目録

御年貢勘定目録 市町 安政四年 一通 三三

御年貢勘定目録 市町宛 安政五年 一通 三三

検見

乍恐口上〔検見願書差出日延願〕 市町、百姓  
惣代、梶屋平右衛門他六名 上宛 九月四日 一通 三〇

小作

小作証文

小作証文之事 小作人、綿屋重兵衛、請人、柿  
屋源兵衛 油屋きぬ宛 文政八年九月 一通 三六

小作証文之事 小作人、竹瀨屋友右衛門・請人  
綿屋重兵衛 油屋重藏宛 文政一一年五月 一通 三三



覚〔線綿代〕 一二月一九日	綿屋八兵衛	梶屋清兵衛宛	戊	一通	三〇
線綿通 卯ノ年	たばこ屋清右衛門	鍛冶屋清兵衛宛	辰	一綴	三六
くり綿之通	油屋金兵衛	かじ屋清兵衛宛	辰	一冊	三五
操〔線〕綿通	直八	かじ屋清右衛門宛	巳と	一冊	三五
線綿通	粕口	かじや清兵衛宛	巳	一冊	三五―二
線綿仕切通	紺市	かじや清兵衛宛	巳のとし	一冊	三五―七
操〔線〕綿之通	綿屋卯兵衛	かじや清兵衛宛	巳	一冊	三五―九
操〔線〕綿仕切通	松宗屋惣治郎	鍛冶屋清右衛門宛	巳	一冊	三五―二
線綿通	たば清	かじや清兵衛宛	巳年	一冊	三五
操〔線〕綿仕切通	松宗	かし清宛	酉	一通	三五―三
線綿通	針屋仁兵衛	かじや清兵衛宛	酉年	一通	三五
線綿仕切通	本家、紺市	梶清宛	戌ノ年	一冊	三五―六
線綿通	うすや利兵衛	かじや清兵衛宛	八月	一冊	三六
線綿仕切通	本家、紺市	かじや清兵衛宛		一冊	三五―五
実綿通	鍛冶清	西弓削村、弥兵衛宛	弘化三年	一冊	三五―八
実綿覚帳	うめ	明治二七年		一冊	三六

実綿通	かじ清	部村宛	戊年	一冊	三五	
実綿相庭之義	とう太	正月三日		一通	三三	
覚〔実綿値段〕	米屋	かじ屋清兵衛宛	一〇月二十九日	一通	三五―五	
覚〔実綿受取書〕	五郎右衛門	喜兵衛・清兵衛宛	十一月二一日	一通	三六	
玉綿通	梶清	伏見屋新宅宛	酉八月	一冊	三九	
玉綿通	梶清	加賀屋とく宛	戊	一冊	三〇	
二月綿仕切通	油八	鍛冶屋清兵衛宛	巳年	一冊	三五―一	
覚〔ぼろ綿代金〕	藤	梶清宛	七月勝朔日	一通	三五	
おぼえ〔綿代金〕	清三郎	甚兵衛宛	十一月二日	一通	三六	
御断	家質濟主、松原徳次郎・訴人、綿屋久兵衛	市町御年寄中宛	安政六〔年〕正月	一綴	三五	
〔質〕兵衛宛	泥堂町、質置主、綿屋安兵衛	升屋新兵衛宛	安政六年一〇月	一通	三五―三	
御断	野堂町、土戸屋卯兵衛	大坂、升屋新兵衛他一名	御年寄中宛	万延元年四月	一通	三五

繫一札之事 野堂町、質置主、灘屋平吉・市町  
証人、灘屋孫兵衛 市町、鍛冶屋亦吉宛 文  
久二年七月 一通 二〇

一札〔質物〕 鍛冶屋平右衛門 瓦屋喜兵衛宛  
嘉永六〔年〕五月 一通 二〇

預り一札 預り一札主、市町、鍛冶屋平右衛門  
野堂町、瓦屋時兵衛宛 嘉永三年一二月 一通 二〇

〔借請建物図面〕 市町、建物持主、井中次良  
吉・市町、地主、梶野縁四郎他一名 杉本久次  
郎宛 明治一六年二月 一通 二〇

質物証文

地所書入証文之事 波川郡、四条村、永田伊平  
衛 綿袋町、増井新兵衛宛 明治六年七月二五  
日 一通 二七

田畑質物証文之事 野堂町、質置主、福井仁兵  
衛・市町、証人、高見弥兵衛 市町、梶野平右  
衛門宛 明治六年七月 一通 二〇

引当諸書之事 市町、借主、尾崎伝右衛門・請  
人、小谷藤助 梶野平右衛門宛 明治八年一二  
月 一通 二三

物品書入確証 平野郷、市町、物品持主、榎谷  
徳治郎・同、荷受人、名田吉兵衛 市町、梶野  
平右衛門宛 明治一一年一〇月二五日 一通 二六

地所書入確証 市町、借用主、小谷藤助・同町  
受人、岡田由兵衛他一名 梶野平右衛門宛  
明治一四年四月一〇日 一通 二〇

地所書入確証 借用主、福井タケ・受人、福井  
伊兵衛 明治一四年九月一五日 一通 二〇

建家書入借用証文之事 市町、建家書入主、井  
中次郎吉・市町、地主、梶野縁四郎他一名、小  
坂合村、杉本久次郎宛 明治一六年二月二日 一通 二〇

質流

地所書入確証 市町、地所書入金借用主、福井  
儀八・野堂町、受人、吉川喜兵衛 明治一六年  
四月 一通 二〇

譲り申畑之事 堺、畑譲り主、金屋惣兵衛・正  
覚寺村、同、藤左衛門他一名 綿屋重兵衛宛  
安永一〇年四月 一通 二〇

譲り相渡申畑之事 譲り主、瓦屋藤兵衛・請  
人、友右衛門 綿屋重兵衛宛 文政一一年五月  
流相渡申屋舖之事 野堂町、流れ主、公勢・同  
町、証人、車屋武兵衛 市町、鍛冶屋清兵衛宛  
天保三年九月 一通 二〇

譲り相渡申畑之事 譲り主、竹洲屋友右衛門  
・証人、播磨屋幸八 鍛冶屋清兵衛宛 天保四  
年二月 一通 二〇

流相渡申屋敷之事 市町、質流主、深江屋太兵  
衛宛・同町、証人、鍛冶屋正次郎 梶屋清兵衛  
宛 天保四年九月 一通 二六

譲り相渡し申畑之事 野堂町、畑譲り主、綿屋  
重兵衛・同町、証人、古手屋七兵衛 市町、梶  
屋清兵衛宛 天保一〇年二月 一通 二六

譲り相渡申畑之事 野堂町、田畑譲り主、綿  
屋重兵衛・同町、証人、古手屋七兵衛 市町、  
鍛冶屋清兵衛宛 天保一〇年二月 一通 二六

譲り相渡申畑之事 野堂町、田畑譲り主、綿  
屋重兵衛・同町、証人、古手屋七兵衛 市町、  
鍛冶屋清兵衛宛 一通 二六

譲り相渡し申畑之事 野堂町、畑譲り主、綿屋重兵衛・同町 証人、古手屋七兵衛 市町、鍛治屋清兵衛宛 天保一〇年二月 一通 六

質物流申田畑之事 弘化四〔年〕 一通 七

質物三相渡申建家之事 市町、質置主、松屋徳治郎・同町、証人、綿屋久兵衛 嘉永六年二月 一通 八

質物相渡申畑地之事 野堂町、質置主、古手屋左兵衛・市町、証人、灘屋弥兵衛 鍛治屋平右衛門宛 文久二年 一通 三

利銀請証文

利銀請証文之事 野堂町、土戸屋宇兵衛・市町、井筒屋太八 鍛治屋うの宛 安政六年三月 一通 三

利銀請証文之事 野堂町、灘屋平吉・市町、灘屋弥兵衛 かじや又吉宛 文久二年一〇月 一通 三

質屋

〔古手業鑑札返上願〕 梶野平右衛門・戸長、藤岡平右衛門 大阪府、権知事、渡辺昇 明治六年一月九日 一通 三

領収書〔第四期組合経費〕 大阪質屋組合事務所 梶野縁四郎宛 明治三七年一月二六日 一枚 三

〔質屋開業〕 質屋事務所 た治見□□宛 八月一〇日 一通 六

貸家

貸家

御届 梶野縁四郎宛 明治二六年六月五日 一綴 三

貸家証文

市町、竹淵松治郎・古谷富吉 梶野平右衛門宛 明治九年三月二日 一通 六

貸家証文請状之事 梶野平右衛門宛 明治九年四月 一通 三

貸家証文請状之事 市町、借主、瓦谷常吉・同町、請人、大谷藤吉 梶野平右衛門宛 一通 三

借家

借家

借家店借り一札 馬場町、井筒屋富吉 支配人 京屋市兵衛宛 慶応四〔年〕三月 一通 三

借家店借り一札 大和屋源兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 慶応四〔年〕四月 一通 三

借家借り請一札之事 野堂町、借り主、豊前屋安兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治二〔年〕正月 一通 三

借家店仮一札之事 大和屋弥兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治二年八月 一通 三

借家納家借り一札之事 流町、淡路屋吉兵衛 市町、市兵衛宛 明治二〔年〕八月 一通 三

借家店貸一札之事 松原屋武兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治二年一二月 一通 三

借家納家借り一札之事 野堂町、借り主、ふじや伊助・同、受人、柏屋利兵衛 市町、京屋市兵衛宛 明治三年正月 一通 三

借家店仮一札之事 借家仮り主、大黒屋安兵衛・野堂町、同、伊兵衛 京屋市兵衛宛 明治三年正月	借家店仮一札之事 借り主、八百屋徳吉・むめ 支配人、京屋市兵衛宛 明治三年三月	借家店貸り一札 あごや治郎吉 支配人、京屋市兵衛宛 明治三年五月	借家店仮り一札 野堂町、借り主、古手屋市兵衛・同、受人、大坂屋治兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治三年五月	借家店仮り一札之事 野堂町、借り主、蛇草屋長右衛門・受人、道具屋定七 市町、京屋市兵衛宛 明治三年五月	借家店仮り一札之事 野堂町、受人、田嶋屋源兵衛・同、借り主、伊勢屋安吉 市町、支配人、京屋市兵衛宛 明治三年六月	借家店借り一札之事 市町、借家借り主、はりまや源左衛門 支配人、京屋市兵衛宛 明治三年七月	借家出店仮り一札之事 北蛇草村、借家店仮り主、伊介 市町、京屋市兵衛宛 明治三年九月	借家店貸一札 たるや善兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治三年一月	借家店仮り一札之事 流町、請人、水屋吉兵衛・同町 借り主、時埜屋常吉 京屋市兵衛宛 明治四年二月	借家店借り一札之事 野堂町、家借り主、袋屋藤兵衛 支配人、京屋市兵衛宛 明治四年三月
一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通	
三	二	四	三	三	三	三	三	三	三	

覚〔借家手附銀〕 大工、清兵衛 梶野清右衛門宛 未一二月五日 一通 四〇一五

借家請状

借家請状之事 居主、蛇草屋喜八・引請人、柿屋甚右衛門 鍛冶屋清兵衛宛 天保三年	借家請状之事 居主、古手屋與三兵衛・引請人、大和屋源兵衛 鍛冶屋清兵衛宛 天保三年	借家請状之事 市町、借家主、加賀屋久兵衛・野堂町、請人、豆腐屋伊兵衛 鍛冶屋清兵衛宛 天保一一年正月	借家請状之事 市町、借家主、沢田屋惣次郎・馬場町、請人、河内屋伊兵衛 梶屋清兵衛宛 天保一一年正月	〔借家請状〕 市町、受人、鍋屋市松・借り主、大和屋常吉 支配人、京屋市兵衛宛 慶応三年正月	借家請状之事 家借主、粕屋政右衛門・請人、田屋善左衛門 市町、京屋市兵衛宛 明治四年二月	借家請状之事 借り主、梶川いけ・請人、正野久兵衛 梶野平右衛門宛 明治四年九月
一通	一通	一通	一通	一通	一通	一通
二	三	三	三	三	三	三

家賃

家賃の通

酉年月賃之通	はり兼引受、定右衛門宛	明治六年	一通	三三
月家賃之通	梶清	明治一二年九月	一通	三三
月家賃之通	梶清	明治一七年一月	一通	三三
月家賃之通	梶清	大和源治郎宛	明治一七年一月	三三
月家賃之通	梶清	大□善威宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	きく宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	嘉吉宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	日野常治郎宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	五□辰治郎宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	藤本常治郎宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	大工、信治郎宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	八木油松宛	明治一八年一月	三三
月家賃之通	梶清	播磨定右衛門宛	明治一八年一月	三三

月家賃之通	梶清	車せい宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	かさや音吉宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	備前平助宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	吉治郎宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	檜木伊助宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	松本磯治郎宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	家根市兵衛宛	明治一八年一月	一通	三三	
月家賃之通	梶清	梶惣宛	明治一八年一月	一通	三三	
家賃未納		黒川瑞仙	梶野宛	三月三日	一通	三三
家賃請取証	梶野	こしの宛	辰		二枚	三三
家賃請取	梶野	本間浅治郎宛	辰		二枚	三三
証〔貸家賃受取〕	柳増	梶野宛	七月二三日		一通	三三
証〔貸家賃受取〕	柳増	梶野宛	九月三日		一通	三三



売渡

建家

売渡申建家之事 野堂町、売主、公勢・同町、証人、車屋武兵衛 市町、鍛冶屋清兵衛宛 天保三年九月 一通 三三

売渡申建家之事 市町、深江屋太兵衛・請人、鍛冶屋正次郎 梶屋清兵衛宛 天保四年九月 一通 三三

土蔵

売渡申土蔵之事 市町、土蔵売主、深江屋太兵衛・野堂町、請人、大黒屋伊兵衛 鍛冶屋清兵衛宛 文政一一年九月 一通 三三

永代売渡申土蔵之事 市町、売主、鍋屋兵右衛門 鍛冶屋清兵衛宛 天保五年一〇月 一通 三三

畑地

売渡申畑地之事 市町、畑地売渡主、榊谷徳平・同町、請人、名田吉兵衛他一名 市町、梶野平右衛門宛 明治一二年三月三日 一通 三三

畑地売渡申証文之事 畑地売渡主、原喜平治・請人、原専一郎 市町、小谷藤助宛 (明治) 一二年一一月七日 一通 三三

畑地売渡証文之事 野堂町、売渡主、吉川喜兵衛・野堂町、証人、高見菊松 市町、梶野縁四郎宛 明治二〇年三月 一通 三三

地所

地所売渡確証 新在家村、地所売渡人、大橋仲右衛門・同村 請人、西田五左右門 市町、梶野平右衛門宛 明治一一年九月二九日 一通 三三

地所売渡し確証 市町、畑地売渡主、榊谷徳治郎・市町、受人、名田吉兵衛 市町、梶野平右衛門宛 明治一一年一〇月 一通 三三

地所売渡確証 市町、売主、小谷藤助・同町、請人、岡田由兵衛 市町、梶野縁四郎宛 明治一七年二月 一通 三三

地所売渡証 津田六蔵・塩川徳兵衛他六名 梶野縁四郎宛 明治一八年一月二二日 一通 三三

地所売渡証 野堂町、売渡主、吉川喜兵衛・野堂町、証人、高見菊松 梶野縁四郎宛 明治二〇年三月一〇日 一通 三三

地券書換手数料

証〔地券書換手数料〕 野堂町外六ヶ町、戸長役場 梶野縁四郎宛 一通 三三

支配

支配

支配

乍憚書付を以御願奉申上候 馬場町代、平右衛門・西脇町代、茂兵衛 七町、御年寄中宛 明治二一年一一月 一通 三三

御役用之控 柳平兵衛 嘉永七年 一冊 三三

御用出勤控	安政四年一月	一冊	六
乍恐以書付御願奉申上候	市町百姓惣代、坂井太久助他四名 地方御役所	一通	三〇
乍恐口上〔年寄役御免願〕	市町、年寄、梶野平右衛門 地方御役所	一通	三〇
乍恐口上〔年寄役御免願〕	市町、年寄、梶野平右衛門 地方御役所	一通	三六
覚〔御国役掛り諸人用〕	中谷 梶野宛	一通	三三
覚〔地方御役所よりの願書〕	西庄連村 平野市町、年寄、町年寄中宛	一通	六
〔大坂御町奉行所伺いの件〕	神道方改役、生田長門	一通	三〇
差紙	東番所 市町、木屋佐左衛門并二訴しもの宛	一通	五
差紙	東番所 市町、木屋左兵衛并二訴しもの宛	一通	三
口達〔御代官御出向〕	中谷 梶野宛	一通	三七
覚〔地方御役所よりの願書〕	西庄連村 平野市町へ	一通	六
記〔租税金明細書〕		一通	三〇
乍憚書付を以御願奉申上候〔加扶持願〕		一通	三
御訴訟并廻状諸方引合控帳	市町	一通	七

勸解書	天王寺治安裁判所	原告、梶野縁四郎宛	明治一七年五月一九日	一通	三十四
貸金請求之訴状	梶野縁四郎	天王寺、治安裁判所長・判事補、浅井佐一郎宛	明治一七年五月二六日	一通	三六
借用金証券	借主、角田シゲ・受人、吉蔵清次郎	梶野縁四郎宛	明治一七年六月一日	一通	三三
願下ヶ書	原告人、梶野縁四郎	天王寺、治安裁判所長・判事補、浅井佐一郎宛	明治一七年六月二日	一通	三三
嘆願書	原告人、梶野縁四郎	天王寺治安裁判所長・判事補、浅井佐一郎		一通	三一
裁判言渡書	天王寺、治安裁判所	判事補、浅井佐一郎	明治一八年四月一七日	一通	三五
登記					
地所登記済証下付願	梶野縁四郎	登記所宛	明治二〇年三月一〇日	一通	六
租 税 通					
未租税金上納通	鞍作村、庄屋、弥平太・同吾平	平野郷、清平宛	明治四年	一通	三〇
御租税通	八番組	市町、梶野平右衛門宛	明治六年四月	一通	三
西租税上納之通	鞍作村、戸長、辻尾吾平・副戸長、原島市兵衛	平ノ郷、梶野清平宛	明治六年	一通	三〇

御租税之通 明治六年

一通 三

御租税金請取通 六番組正副戸長 平野郷、梶野平右衛門宛 明治七年

一通 三

通知書

所得金額決定通知書 平野郷稅務署長、藤田準梶野縁四郎宛 明治三六年八月六日

一枚 三六

所得金額決定通知書 平野郷稅務署長、藤田準市、梶野平太郎宛 明治三六年八月六日

一枚 三六

租税請取通

未租税請取通 竹瀝 かじや清右衛門 明治四年

一通 三六

申租税請取通 竹瀝 かじや清右衛門 明治五年

一通 三三

酉御租税請取通 竹瀝 梶野平右衛門宛 明治六年

一通 三三

地租

畑地租 大阪府中河内郡龍華村、收入役、村井榮吉 梶野縁四郎宛 明治三六年九月

一枚 三三

町税

明治二十四年度町税第一期營業割 住吉郡平野郷町収入役、土橋保愛 梶野縁四郎宛 明治二十四年一月一六日

一枚 三三

金 融

相 場

相 場 書

金錢相場帳 平右衛門 安政五年正月〜二月 一冊 三六

金錢相場帳 梶野 安政六年正月〜二月 一冊 三六

金錢相場帳 梶野 安政七年正月〜二月 一冊 三三

金錢相場帳 梶野 万延二年正月〜二月 一冊 三六

金錢相場帳 梶野 文久二年正月〜二月 一冊 三三

金錢相場帳 梶野又吉 文久三年正月〜二月 一冊 三三

金錢相場帳 梶野 文久四年正月〜二月 一冊 三三

金錢相場帳 梶野 元治二年正月〜二月 一冊 三三

〔金錢相場帳〕〔梶野〕〔慶応三年正月〜明治一三年一二月〕 一冊 三三

相場書 一枚 三三

相場書 一枚 三三

相場書 一枚 三三

相場書 二枚 三三

相場書 三枚 三三

相場書 三枚 三三

相場書	一八枚	巽	覚〔油粕借用証文〕市町、綿屋市治郎 市町 御年寄中宛 安政五年
相場書	三枚	巽	覚〔油粕借用証文〕市町、大坂屋佐兵衛 市町 御年寄中宛 安政五年
相場書	三枚	巽	覚〔油粕借用証文〕市町、大坂屋佐兵衛 市町 御年寄中宛 安政五年
相場書	六枚	巽	覚〔油粕借用証文〕市町、借り主、樽屋安兵衛・同、受人、若江屋喜八 市町、御年寄中宛 安政五年
相場書	六枚	巽	覚〔油粕借用証文〕市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、かさ屋五兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
金錢相場帳	一冊	三番	覚〔油粕借用証文〕市町、日向屋治郎兵衛・綿屋弥兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
借入			
油粕借用			
覚〔油粕借用証文〕 ・同、受人、臼屋市右衛門 安政五年	一通	丸一六	市町、借り主、木屋つる市町、御年寄中宛
覚〔油粕借用証文〕 ・同、木屋善治郎 五年	一通	丸一五	市町、借り主、綿屋儀兵衛市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 ・魚屋五郎兵衛 五年	一通	丸一六	市町、樽屋太助・西脇町市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 兵衛・流町、受人 中宛 安政五年	一通	丸一七	市町、借り主、上煎屋藤塩屋庄兵衛 市町、御年寄中宛
覚〔油粕借用証文〕 受人、治兵衛 五年	一通	丸一八	市町、借り主、喜兵衛・泥市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 衛門・同町、受人 寄中宛 安政五年	一通	丸一九	市町、借り主、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、若江屋喜八 安政五年	一通	丸一三	市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、若江屋喜八 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、日向屋治郎兵衛・綿屋弥兵衛 安政五年	一通	丸一四	市町、日向屋治郎兵衛・綿屋弥兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、かさ屋五兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸一五	市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、かさ屋五兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、木屋つる市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸一六	市町、借り主、木屋つる市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、綿屋儀兵衛市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸一七	市町、借り主、綿屋儀兵衛市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、樽屋太助・西脇町市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸一八	市町、樽屋太助・西脇町市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、上煎屋藤塩屋庄兵衛 市町、御年寄中宛	一通	丸一九	市町、借り主、上煎屋藤塩屋庄兵衛 市町、御年寄中宛
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、喜兵衛・泥市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二〇	市町、借り主、喜兵衛・泥市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二一	市町、借り主、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、若江屋喜八 安政五年	一通	丸二二	市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、若江屋喜八 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、日向屋治郎兵衛・綿屋弥兵衛 安政五年	一通	丸二三	市町、日向屋治郎兵衛・綿屋弥兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、かさ屋五兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二四	市町、借り主、大和屋浅右衛門・同、受人、かさ屋五兵衛 市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、木屋つる市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二五	市町、借り主、木屋つる市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、綿屋儀兵衛市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二六	市町、借り主、綿屋儀兵衛市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、樽屋太助・西脇町市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二七	市町、樽屋太助・西脇町市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、上煎屋藤塩屋庄兵衛 市町、御年寄中宛	一通	丸二八	市町、借り主、上煎屋藤塩屋庄兵衛 市町、御年寄中宛
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、喜兵衛・泥市町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸二九	市町、借り主、喜兵衛・泥市町、御年寄中宛 安政五年
覚〔油粕借用証文〕 市町、借り主、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政五年	一通	丸三〇	市町、借り主、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政五年

覚〔油粕借用証文〕 受、木屋孫兵衛	市町、油屋市兵衛・同町 御年寄中宛 安政六年	一通	六	覚〔油粕借用証文〕 市町、綿屋儀兵衛・同町 御年寄中宛 安政六年	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 受、木屋伊右衛門	市町、木屋佐兵衛・同町 御年寄中宛 安政六年	一通	六	覚〔油粕借用証文〕 市町、日向屋治郎兵衛・同町、綿屋弥兵衛 御年寄中宛 安政六年	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 受、石屋儀右衛門	市町、木屋七左衛門・同町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	覚〔油粕借用証文〕 市町、木屋つる・同町、白屋市右衛門 御年寄中宛 安政六年	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 市町、ふじ屋伊助・野堂、ふぢ屋藤助	市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	借 用		
覚〔油粕借用証文〕 受、うお屋五郎兵衛	市町、樽屋太助・西脇町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申金子之事 新在家村、新治郎 正覚寺村 慶応元年閏五月	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 受、正覚寺屋うの	市町、糞屋安兵衛・同町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申金子之事 市町、木本屋藤助 綿袋町、升屋新兵衛宛 慶応元年七月	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 市町、木屋佐右衛門・同所、綿屋伊兵衛	市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申銀子之事 平野郷市町、木本屋藤助・同、京屋市兵衛 正覚寺村、与三郎宛 慶応元年七月	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 市町、靴屋惣兵衛・同町、たばこ屋安兵衛	市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申銀子之事 平野郷野堂町、綿屋重兵衛・同、加賀屋与兵衛 四条村 傳七宛 慶応元年八月	一通	六
覚〔油粕借用証文〕 佐兵衛 市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申銀子之事 新在家村 慶応元年一二月	一通	六	
覚〔油粕借用証文〕 市町、柳屋宇兵衛・受人、六兵衛 市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申銀子之事 平野郷野堂町、大塚屋輪助・同、大塚屋輪七 四条村、傳七宛 慶応元年九月	一通	六	
覚〔油粕借用証文〕 市町、樽屋安兵衛・同町、受人、若江屋喜八	市町、御年寄中宛 安政六年	一通	六	預り申金子之事 市町、木本屋藤助・今在家屋儀助 四条村、傳七宛 慶応二年九月	一通	六
				預り申銀子之事 平野郷野堂町、古綱屋六蔵・同、綿屋平兵衛 四条村、傳七宛 慶応二年一月	一通	六

預り申金子之事 慶応四(年)一〇月	灘屋彌兵衛	梶野平右衛門宛	一通	三
預り申銀子之事 天保二年一二月	割木屋孫七	梶尾清兵衛宛	一通	七
預り申銀子之事 断、大和屋源兵衛 四月	預り主、古手屋与三兵衛・同	鍛冶屋清兵衛宛 天保七年	一通	三
覚〔金子借用証文〕 天保一一年正月	市町、佐兵衛	梶屋清兵衛宛	一通	三
預り申銀子之事 鍛冶屋清兵衛宛	今在家村、預り主、吉右衛門	嘉永二年一二月	一通	七
預り申銀子之事 覚〔借金〕	車屋喜兵衛	梶野平右衛門宛 嘉永六(年)一二月	一通	三
預り申銀子之事 衛門宛	小原屋太右衛門	かじ屋清右衛門宛 嘉永六年一二月	一通	八
預り申金子之事 安政四年一二月	灘屋彌兵衛	梶野兵右衛門宛	一通	三
預り申銀子之事 安正六年六月	灘屋孫兵衛	梶野平右衛門宛	一通	九
預り申金子之事	文久二(年)七月		一通	三
預り申金子之事 衛門宛	新在家村、九郎平	梶野平右衛門宛 文久四年五月	一通	三
預り申銀子之事 元治二年正月	市町、預り主、 灘屋孫兵衛	梶野平右衛門 かわらやとく宛	一通	三
借用申金子之事 年正月	市町、梶野平右衛門	明治二年正月	一通	三

預り申金子之事 四糸村、傳七宛	野堂町ね正覚寺村、治兵衛	明治二年正月	一通	三
預り申銀子之事 東瓜破村、新右衛門宛	平野郷野堂町、綿屋平兵衛	明治二年二月	一通	三
預り申銀子之事 、田嶋屋儀兵衛	野堂町、田嶋屋源兵衛・同町	明治二年五月	一通	三
預り申金子之事	明治三(年)八月		一通	三
借用申金子之事	明治六年六月		一通	三
借用申金子之事 右衛門宛	米田清七・米田伊八	梶野平 明治七年三月	一通	三
預り申金子之事 御中、車屋弥之助他四名宛	市町、梶野平右衛門 世話人	明治七年九月二七日	一通	三
借用申証文之事 郎・請人、辻岡嘉七	新在家村、借り主、岡田平四	梶野平右衛門宛 明治八年七月	一通	三
借用金証券 衛 梶野平右衛門宛	借主、井中佐七・請人、大森安兵衛	明治一一年八月九日	一通	三
借用金証券 宛 明治一一年九月一〇日	借主、辨谷徳兵衛	梶野平右衛門	一通	三
借用金証券 兵衛 梶野平右衛門宛	借主、辨谷徳兵衛・請人、名田吉	明治一二年二月二日	一通	三
預り申金子之事 平右衛門宛	大坂島の内、真水弥助	梶野 明治一四年四月一三日	一通	三
借用金証券 受人、道中治郎兵衛	市町、借主、市橋市兵衛・同町、	梶野平右衛門宛 明治一五年一月三日	一通	三

預り金之証 明治一五年四月九日	預り主、榎本平助 梶野縁四郎宛	一通	三
借用金証券 明治一五年四月二四日	正覚寺村、借主、卯埜伊八 梶野縁四郎宛	一通	六
借用金証券 山村正清・受人、大友市兵衛 市、梶野縁四郎宛 明治一五年六月二五日	市	一通	七
借用金之証 野堂町、借主、榎本平助・背戸 口、請主、糀谷五兵衛 梶野縁四郎 明治一五年一月二日	野堂町、借主、榎本平助・背戸 口、請主、糀谷五兵衛 梶野縁四郎	一通	三
借用金証券 桐木伊助 梶野縁四郎宛 明治一五年一月五日	桐木伊助 梶野縁四郎宛	一通	元
預り申金子之事 野堂町、預り主、榎本平助・ 同、引受主、糀谷五兵衛 梶野縁四郎宛 明治一五年	野堂町、預り主、榎本平助・ 同、引受主、糀谷五兵衛 梶野縁四郎宛	一通	六
借用金証券 借主、卯野伊八 梶野縁四郎宛 明治一六年四月五日	借主、卯野伊八 梶野縁四郎宛	一通	七
金借用証券 背堂口町、大谷嘉兵衛・岡田平兵 衛 梶野縁四郎宛 明治一六年六月四日	背堂口町、大谷嘉兵衛・岡田平兵 衛 梶野縁四郎宛	一通	五
借用金証券 借主、名田安吉・受人、名田吉兵 衛 梶野縁四郎宛 明治一六年九月一日	借主、名田安吉・受人、名田吉兵 衛 梶野縁四郎宛	一通	三
借用申金子之事 正覚寺村、卯野伊八 梶野縁四郎宛 明治一七年一月九日	正覚寺村、卯野伊八 梶野縁四郎宛	一通	五
借用申金子之事 市町、車口卯之助・同町、名 田玄兵衛 梶野縁四郎宛 明治一七年二月八日	市町、車口卯之助・同町、名 田玄兵衛 梶野縁四郎宛	一通	六
預り申金子之事 住吉郡平野市町、小谷藤助 梶野縁四郎宛 明治一七年二月一〇日	住吉郡平野市町、小谷藤助 梶野縁四郎宛	一通	三
預り申金子之事 卯野伊八 梶野縁四郎宛 明治一七年三月五日	卯野伊八 梶野縁四郎宛	一通	六

借入

〔借用証文一件〕 明治二五年三月二七日	井上福太郎他三名 梶野宛	一通	三
金子預り証 梶野縁四郎 杉田せい宛 明治三五年八月〇〇日	梶野縁四郎 杉田せい宛	一通	七
覚〔借金〕 角屋新兵衛 梶清宛 子一二月一 九日	角屋新兵衛 梶清宛	一通	四一
覚〔借用証〕 日向屋惣兵衛 梶ノ清兵衛宛 寅四月二〇日	日向屋惣兵衛 梶ノ清兵衛宛	一通	三
覚〔金子預り証〕 糀屋四郎兵衛 梶本平右衛 門宛 寅一月七日	糀屋四郎兵衛 梶本平右衛 門宛	一通	三三
覚〔訴状〕 平野郷市町 亀井村、伊左衛門宛 午正月二七日	平野郷市町 亀井村、伊左衛門宛	一通	四一六
覚〔預り金一件〕 正覚寺村、弥兵衛 梶野平 右衛門宛 午五月四日	正覚寺村、弥兵衛 梶野平 右衛門宛	一通	三
借用申金子之事 松原庄吉 梶野縁四郎宛 申二月一日	松原庄吉 梶野縁四郎宛	一通	三
覚〔金子預り証〕 永保 梶野宛 申五月二日	永保 梶野宛	一通	三三
覚〔金子借入証文〕 市町、佐治兵衛 梶野宛 戌三月二日	市町、佐治兵衛 梶野宛	一通	三
借用申証文之事 市町、小谷藤助 梶野平右衛 門宛 四月九日	市町、小谷藤助 梶野平右衛 門宛	一通	五
舌代 榎本 梶野宛 九月四日	榎本 梶野宛	一通	六
手紙〔借用〕 年賦証文		一通	三
年賦証文之事 野堂町、古銅屋六兵衛 四条村 傳七宛 明治二年三月	野堂町、古銅屋六兵衛 四条村	一通	七

表

年賦証文之事 野堂町、借用主、櫛田孫七・野堂町、借用主、櫛田伊兵衛他一名 正覚寺村、未久要左衛門宛 明治七年十一月五日 一通 〇三

年賦借用金子之事 借用人、小林正清・請人、木村陽造 梶野平右衛門宛 明治八年六月三〇日 一通 〇五

年賦借用金子之事 市町、借用人、井中佐七・野堂町、請人、樽井弥兵衛 梶野平右衛門宛 明治九年二月 一通 〇六

年賦借用金子之事 野堂町、借用主、田嶋源治郎・野堂町、請人、木下嘉兵衛 梶野平右衛門宛 明治一四年一月一三日 一通 〇三

年賦証文之事 金田友七 梶野縁四郎宛 明治一七年二月一七日 一通 〇五

年賦証文之事 市町、借用主、小谷藤助 〔明治〕 一通 〇六

その他借用

銭之通 かしや清右衛門宛 弘化〔四年〕四月 一冊 〇五

傾榮講掛銀請取通 講元、東屋卯兵衛・引請、天野太右衛門 梶野宛 嘉永六年八月 一包 〇七

年賦銀請取通 鍛冶屋清兵衛 桑津屋栄次郎宛 嘉永七〔年〕 一通 〇六

御上納銀請取帳 市町、安政六年一〇月 一冊 〇六

覚〔貸金返済相滞三付下済取斗願〕 正覚寺村、典三郎 平埜郷市町、御役人中宛 明治五年 一通 〇三

本請証文之事 田嶋源治郎・木下嘉兵衛 梶野平右衛門宛 明治一三年四月二一日 一通 〇三

租税金月賦金借用確証 金借用主、沢田新治郎・沢田浅五郎 梶野平右衛門宛 明治一四年六月一日 一通 〇五

月賦金借用確証 西脇町、借用主、岩田市松 梶野縁四郎宛 明治一六年一二月一八日 一通 〇五

年賦金借用確証 正覚寺村、金借用主、辰巳元八・卯野伊八 梶野縁四郎宛 明治一七年一月一一日 一通 〇三

〔軍債募集〕 平野郷町長、水野富三郎 梶野縁四郎宛 明治三七年二月二五日 一枚 〇六

覚〔利足請取銀〕 瓦喜 鍛冶屋清兵衛宛 寅一二月二九日 一通 〇四一七

覚〔報償銀利足〕 御報償方 梶野清右衛門宛 寅一二月三日 一通 〇六

覚〔前借り一件〕 丁ノ佐兵衛 御年寄、梶野宛 巳九月八日 一通 〇六

覚〔給金借受け〕 市町手代、佐治兵衛 御年寄、梶野宛 申五月三日 一通 〇三一

〔手紙〕 平埜 梶野御氏宛 七月二日 一通 〇七

初り〔銀札明細書〕 一通 〇七

〔未入金〕 木村陽造 梶野平右衛門宛 一通 〇三



# 社 会

## 宗 教

### 神 社

一札〔御異人足一札〕 野堂町、嘉兵衛 七	一通	三
町御年寄中宛 宝曆六年六月		
定〔御公儀より申渡写〕 吉田、神祇道大取締	一通	三
役所宛 寛政一一年一〇月		
本人より拙者方江取之請書如左 榎本兵庫 吉	一通	六
田、御用所宛 安政四年七月六日		
乍恐口上〔神道加入請書〕 神祇管領殿家、改	一通	三
役、生田長門 平野郷、御地頭、御役人中宛		
安政四年一月		
乍恐奉差上請書之事〔神道加入請書〕 神祇管	一通	三
領長□吉田殿家改役 平野郷、御地頭、御役人		
中宛 安政四年一月		
差上申一札之事 神祇管領長之吉田殿家頭役、	一通	三
生田長門正 平野市町、御役人中宛 安政四年		
乍憚口上〔御異願〕 市町、年寄、岡本勘兵	一通	三
衛・同、梶野平右衛門 宮本、惣御年寄中宛		
安政六年五月		
覚〔祈禱料受取〕 掛り役、梅園直蔵 平野郷	一通	三
七丁町、御衆中宛 辰四月一三日		
覚〔明神お供物一件〕 巳十一月一九日	一通	三
酉年略運氣圖 正月	一通	六

### 奉行所御請書左之通

御公儀江神道方名前届如左 吉田殿改役生田長

門 御守神稻荷大神 梶屋清兵衛宛

### 寄 進

覚〔献上金〕 金剛山講中、背戸口町、綿屋太	一通	九
郎兵衛・同町、八百屋六兵衛他一名 七町御年		
寄中宛 天保二年八月		
濱祈禱寄進帳 住よし寄進所 平野郷野堂町・	一通	八
流町他五町宛 天保三年四月一日		
覚〔住吉寄進〕 惣会所 七町、散郷中宛 天	一通	五
保三年四月		
〔寄進〕 全興寺 市町、助右衛門宛 午極月	一通	六
晦日		
覚〔寄進物受取書〕 寄進所 市町、鍛冶屋清	一通	七
兵衛宛 亥八月		
券〔寄進〕 惣本山副寺 七町御会所中宛 九	一通	七
月一七日		
学 校		
学校及役場建築費 住吉郡北百濟村、村長、辰	一枚	三
巳為三郎 梶野縁四郎宛 明治二四年一月二日		
本月皆勤を表彰 平野尋常小学校 梶野嘉三宛	一枚	三
明治三四年一月三日		

本月皆勤を表彰 平野尋常小学校 梶野嘉蔵 一枚 三〇

社会一般

此節流行病ニ付從 御公儀 一通 三三

覚〔夫食助成金〕 夫食方 梶野平右衛門宛 一通 三〇

通知書 日本赤十字社大阪支部、東成郡、委員長、向日保雄 梶野平太郎宛 明治三十七年一月二〇日 一枚 三〇

覚〔施行米請取書〕 町内会所 梶屋清兵衛宛 西正月一日 一通 三三

町

秤改め

秤座諸人用控帳 年番之内、市町 万延元年閏三月 一冊 三〇

廻状〔口達〕 市町 野堂町・流町他四町四村宛 巳二月二日 一通 三〇

口達〔秤持参候之儀は外村へは廻状を以て連絡〕 市町 野堂御町・流御町他四町 申閏三月一〇日 一通 三〇

廻状〔秤改め〕 年番之内、市町 申閏三月一四日 一通 三〇

覚〔秤改料一件〕 一冊 三三

料理勘定書

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 吉田政右衛門宛 子十一月六日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 流御町御用宛 寅二月 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、今助宛 卯二月二十六日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 七町御年寄中宛 辰十一月一日 一通 三三

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 藤岡平右衛門宛 辰十一月十七日 一通 三三

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 □□□文右衛門宛 辰十一月 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、勘兵衛宛 巳十一月十九日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御七町宛 午十一月二十二日 一通 三七

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、文右衛門宛 亥二月六日 一通 三三

覚〔勘定相済〕 鍛冶屋清兵衛 濱野屋栄助宛 二月三日 一通 三〇

覚〔料理勘定証〕 辻八兵衛 馬場御会所、六兵衛宛 十一月四日、八日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、宇吉宛 十一月二日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、卯兵衛宛 十一月四日 一通 三〇

覚〔料理勘定書〕 辻ノ八兵衛 御町、六兵衛宛 一通 三六

覚〔料理勘定書〕 辻八兵衛 御町、六兵衛宛 一通 六

乍憚御願申上候 辻ノ八兵衛 御町、惣御旦那宛 一通 一〇

勘定

覚〔勘定一件〕 手代、佐兵衛 御年寄、梶野宛 已七月一四日 一綴 三八一

覚〔町内勘定書〕 梶野の 岡本氏宛 午一二月晦日 一通 三〇一

覚〔勘定〕 西脇町 梶野御氏宛 三月朔日 一通 三〇一

集金

〔年貢・家賃勘定書〕 一通 三〇

覚〔諸入用費掛け集め〕 丁ノ佐治兵衛 御年寄、梶野宛 申七月一二日 一通 二〇

覚〔家別掛け集め〕 市町、銀治郎 御年寄、梶野宛 申七月一三日 一通 二〇

覚〔家別掛け集め〕 泥堂町、市町宛 申七月二三日 一通 二〇

広報

青地井手口普通水利組合議員選挙人 渋谷郡加美村長、末久清一郎 梶野縁四郎宛 明治二五年四月一八日 一枚 三〇

医院開設広告 杭全治療医院 明治三七年一月五日 一枚 三〇

蜈蚣駆除奨励広告 大阪府東成郡役所 明治三七年四月 一枚 三〇

鶏卵膏 本家、古銭屋弥三兵衛 一枚 三〇

広告〔建家入札〔奥野清順〕〕 木谷伊之助 一枚 三〇

祝儀

〔八朔御祝儀金〕 河内屋作兵衛 七町、御年番宛 正月二二日 一通 三

〔八朔御祝儀金〕 河内屋作兵衛 野堂町御年番、卯右衛門宛 九月二九日 一通 二

交際

書状〔御祝儀金〕 亀屋金次郎 野堂町、宇右衛門宛 一月三日 一通 三

書状〔品物差上候〕 升新 原野、かじ清宛 一月一五日 一通 三

平野軒数書上

午年家数 文化七年 一通 三〇

〔七町軒数書上書〕 文政元年 一通 三〇

〔平野郷軒数書上〕 辰年 一通 三〇

〔平野軒数書上書〕 丑年 一通 三〇

巳年三月改〔平野郷軒数書上〕 一通 三〇

〔市町名寄〕 一通 三〇

おぼへ〔名寄帳〕 一綴 三〇

町費用

町用小入用控帳	安政七年正月	一冊	五
覚〔出費明細書〕	野堂町	一通	五〇
覚〔べか車費用〕	巳七月一三日	一綴	三八一四
覚〔ろうそく費用〕	佐兵衛 御年寄、梶野宛 巳七月一四日	一綴	三八一三
当町請持場所揃		一綴	三八一三
材料費			
覚〔材料費用〕	和泉屋源兵衛 綿新宛 巳九月二七日	一通	〇〇
覚〔材料費〕	松儀 かじ清宛 閏五月七日	一通	〇二
覚〔土木費用〕	五月四日、六月三日	一通	〇〇
〔材料代〕	五月二五日	一通	〇三
覚〔材料費〕	奈良安 かじ清宛 五月二七日	一通	〇〇
覚〔材料費〕	市町御用 一一月八日	一通	六一
人足賃			
覚〔水人足賃〕	野堂町 市御町 午三月一七	一通	〇〇
下書〔人足賃〕	市町 中瀬御氏 午四月一六	一通	〇〇
急口達〔人足供出〕	年番市町 今在家村・新 在家村他一村 九月二二日	一通	〇〇

不納分

町内所々膳并宗旨入用不納之分		一通	〇〇
家別懸り不納分		一通	〇〇
口達・口演			
口達〔小物成給田値段の決定〕	野堂町 町々 安政三年十一月二六日	一通	〇〇
口達〔田地水入れ〕	当郷年番両町年寄 中野村、今在家村他二村宛 巳六月二五日	一通	〇六
口演〔巡行御免〕	御用達、河内屋作兵衛 平野郷野堂町・市町同散郷他宛 巳十一月二七日	一通	三一
急口達〔馬借方一件〕	市町 野堂町・流町他 四町宛 申閏三月四日	一通	〇九
油粕受取書			
覚〔油粕受取書〕	御趣段掛り 市町、年寄中宛 安政六〔年〕一〇月一〇日	一通	〇六
覚〔油粕受取書〕	大和屋浅右衛門 市町、古川伊兵衛宛 巳五月	一枚	三七
受取書			
覚〔請取相済〕	石田 古金屋六藏宛 寅一二月五日	一通	〇三
覚〔受取書〕	伊丹屋 野堂松町、宇右衛門宛 辰四月二八日	一通	〇〇
覚〔代銀受取〕	石四郎 市町御年寄中 巳二月二九日	一通	〇七
覚〔受取書〕	八百屋六兵衛 市町、御年寄衆 中宛 午五月二五日	一通	〇〇

覚〔金の請取〕	綿屋新七	未一〇月二八日	一通	〇一六
覚〔金子請取〕	笠堂町 佐兵衛宛	閏三月九日	一通	〇一六
覚〔受取〕	近江屋與兵衛	上宛 五月九日	一通	〇一六
寄合				
平野郷町奉公義会則	明治三十七年二月		一枚	〇一六
告示第一四〇号	平野郷町長、水野富三郎	明治三十七年三月二一日	一枚	〇一六
市町年寄・同町惣百姓惣代			一通	〇一六
菓				
覚〔泉涌寺配薬料〕	惣年寄	御年番両町宛	一通	〇一六
午正月三日				
薬袋	御薬調合所、上西氏製		一袋	〇一六
奉納銀				
覚〔奉納銀〕	東兵衛	市町御会所宛	一通	〇一六
月二〇日		午一二		
〔芳金一件〕	河内屋作兵衛	七町、御年番宛	一通	〇一六
正月二二日				
廻状				
覚〔廻状受取〕	西□□	平野屋年番、市町宛	一通	〇一六
九月一二日				
その他				
引合書	当町内願人、梶野平右衛門	八番組戸	一通	〇一六
長宛	明治七年二月一六日			

覚〔官位昇進助力銀〕	惣会所	本郷・散郷中	一通	〇一六
宛	辰五月			
覚〔糖粕〕	伏治	梶野清助宛	一通	〇一六
		未七月二二日		
記〔領収書〕	十合呉服店		一通	〇一六
おぼへ〔水鉄砲〕	でいご		一通	〇一六
人別				
人別				
人別				
人別送り一札	市町、年寄	御役人中宛	一通	〇一六
五年正月		嘉永		
送り一札	市町、年寄	泥堂町、御年寄中宛	一通	〇一六
安政五年七月				
人別引取一札	市町、年寄、梶野平右衛門	御役人中宛	一通	〇一六
万延元年四月				
奉公人請状				
乳母奉公人請状之事	奉公人、親主、安兵衛・請人、治兵衛	平野郷、市町、梶野平右衛門宛	一通	〇一六
嘉永七〔年〕	一一月二八日			
奉公人請状之事	大地村、受人、何兵衛・同村親、何兵衛	車屋卯兵衛宛	一通	〇一六
		安政六年八月		
奉公人請状之事	野堂町、卯野伊右衛門・同町、榎木平助	梶野縁四郎宛	一通	〇一六
一日		明治一六年一二月		

奉公人請状之事 一通 元  
奉公人請状之事 一通 二頁

日 備 賃

証〔日備賃借用証〕 周介・小谷藤介 梶野兵 一通 毛  
右衛門・吉川喜兵衛宛 明治一〇〔年〕 八月四

給 料

覚〔給金の先借り〕 町ノ佐兵衛 御年寄梶野 一通 三  
宛 午五月二日

覚〔金子先借り一件〕 手代、佐兵衛 御年寄 一通 三  
梶野宛 午七月一三日

覚〔給金前渡し一件〕 市ノ佐兵衛 御年寄梶 一通 五  
野宛 午九月九日

覚〔給料の先借り〕 佐兵衛 年寄梶野宛 午 一通 一  
一二月一四日

そ の 他

手代給米渡し帳 安政七〔年〕正月 一冊 三

一札〔片身分三相成差入一札〕 瓦屋藤兵衛・ 一通 三  
請人、粕屋四郎兵衛 瓦屋とく外親類中宛

梶 野 家

書 類

請 求 書

請求証 市町、高見庄兵衛 梶野平右衛門宛 一通 一  
明治一四年八月二十九日

記〔請求書〕 太田書店 梶野宛 二月一七日 一通 三

書出し 呉服染物商、田井定次郎 梶野□宛 一通 三  
四月三〇日

書出し 呉服染物悉皆商 梶野□内宛 四月 一通 三

〔請求書〕 紀伊 かじ清宛 五月九日 一通 三

〔材料代〕 蓬治 梶野宛 一通 三

納 品 書

覚〔納品書〕 濱栄 かじ清宛 一通 三

受 取 書

覚〔領収書〕 京鶴 梶清宛 安政二年二月 一通 三  
一八日

〔領収書〕 東成・住吉郡長、桜井義起 梶野 一通 三  
縁四郎宛 明治一八年一月二八日

〔領収書〕 寺内登記所 梶野縁四郎宛 明治 一通 三  
二〇年三月一七日

〔領収証〕 渋谷郡鞍作村外四ヶ村 梶野縁四 一通 三  
郎宛 明治二〇年三月一七日

〔領収書〕 東成・住吉郡長、山口昌壽 梶野 縁四郎宛 明治二四年一月一七日	一通	三冊	米預り証文之事 野堂町、田嶋屋源兵衛 梶野 平右衛門宛 慶応四年二月	一通	三冊
領収証書 大阪府中河内郡龍華村収入役、村井 榮吉 梶野縁四郎宛 明治三七年四月	一通	三冊	〔之通〕 油屋八兵衛 かじや清兵衛宛 午年	一通	三冊
覚〔領収書〕 堀江 梶野宛 卯七月	一通	三冊	酒之通 沢田屋嘉兵衛 梶野清右衛門宛 戊午	一通	三冊
覚〔領収証〕 かじや政治郎 鍛冶屋清兵衛宛 巳九月七日	一通	三冊	賄入用之通 永保	一通	三冊
覚〔領収書〕 勘兵衛 かぢせ宛 申六月一一日	一通	三冊	曆		
覚〔受取書〕 出戸勘 かぢ野宛 申一二月六日	一通	三冊	寅歲農商便覽 吉村常次 明治二二年一月	一通	三冊
口達〔金の請取〕 金田 梶野宛 正月四日	一通	三冊	明治三十五年当用便覽 小島和三郎 明治三四年一二月六日	一通	三冊
覚〔請取〕 小米太 かじ清宛 二月二四日	一通	三冊	明治三十六年略本曆 神部署 明治三五年一月一日	一通	三冊
覚〔受取〕 奈良安 平の、かじ清宛 五月二一日	一通	三冊	明治三十六年吉方位 清水嘉市 明治三五年一月六日	一通	三冊
〔商品受取書〕 吉田商店 梶野宛 七月一五日	一通	三冊	明治九年太陽略曆 大阪頒曆商社中弘曆者・同 松浦善右衛門	一通	三冊
覚〔領収書〕 堀江 梶野御旦那宛 八月一五日	一通	三冊	家		
記〔受取書〕 太田 梶野宛 一〇月八日	一通	三冊	梶野平右工門名字 牧山矩仲至甫 安政四年	一通	三冊
覚〔受取預り〕 慥吉 梶野宛 一〇月一八日	一通	三冊	婚礼札式控 万延元年閏三年	一通	三冊
通 仲買、油屋八兵衛 かじ屋清右衛門宛 天保七〔年〕一二月	一通	三冊	道具員数控 万延元年四月一〇日	一通	三冊
			〔断りの返事〕 木村 梶野宛 四月二九日	一通	三冊
			覚〔舟板材料費〕 堺屋治兵衛 市町、かじ屋宛 五月	一通	三冊

婚礼税納控

一冊 六〇

送り状

一通 〇

〔風呂材料費〕

一通 〇一〇

御しよび割符控

一冊 三〇

〔長屋新築積算書〕

一通 〇〇

〔建家・土蔵等書上一件〕

一通 一〇

建家明細書

一通 三〇

教 養

御歳徳 元禄九年正月

一冊 二

ぢんこう記 □□駒松 宝曆三年

一冊 三

引札 布屋利兵衛

一枚 〇

庭訓往来

一冊 一

雑

土産物新員覚 万延元年閏三月

一冊 六〇

手紙 坂上伝兵衛 金屋弥兵衛宛 三月一四日

一通 〇

使口上〔参集〕 梶野儀貞宛 三月二四日

一通 三〇

手紙 筒井 鈴木求馬宛 五月二六日

一通 三〇

口上 小米屋吉右衛門 かじ清宛 六月朔日

一通 〇

〔亀次郎一件〕 惣会所 かじ野清右衛門宛 九月一四日

一通 六

手紙 鈴木梅□ 梶野御中宛 一月晦日

一通 三〇

覚

一通 三〇

不納メ

一通 〇



## 墨屋儀助・増井家・吉野屋・京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書目録解題

本目録は大坂京都油問屋文書目録・墨屋儀助文書目録・増井家文書目録・吉野屋文書目録・京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書目録・梶野家文書目録の六つの文書目録を収めた。解題については大坂京都油問屋文書目録と梶野家文書目録の解題を省いた。理由は文書数も少なく、特別な文書も少ないからである。

### 墨屋儀助文書目録

筆と墨に関する記録が乏しく、解題を書くにあたり史料が不足していることを痛感した。そのような意味では墨屋儀助文書・京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書は重要だと思える。

天保八年に発刊された『仁風便覧』のなかに立売堀南裏町の町名に墨屋金太郎・墨屋紋介・墨屋儀介・墨屋儀兵衛等、四名の墨屋の名前がある。『商人買物獨案内 後編 全』 文政七年刊の筆の頃に

天保二壬戌年ヨリ相続

石上美濃椽藤原快家

宝曆年中浪花屋づくし出 同 山城大椽藤原常足

同 豊後椽藤原利泰

安永年中難波丸二出 同 河内大椽藤原長久

⑦ 墨筆硯仕入所

⑧ 諸国酒造油煙印墨制

明和三丙戌年相改當時

新町西口井戸ノ辻

玄淋堂石上儀祐

また、墨の項では

従天和二壬戌年相統

石上美濃椽藤原快家

宝暦年浪花屋づくし二出

同 山城大椽藤原常足

同 豊後大椽藤原利泰

安永年難波丸二出

同 河内大椽藤原長久

⑦ 墨筆硯仕入所

⑧ 諸国酒造油煙印墨制

明和丙戌年相改当時新町西口井戸ノ辻

玄淋堂石上儀助

そして明治十五年一月に発刊された『商工技芸浪華の魁』にも

新町通三丁目問屋橋筋西入 筆墨製造所 玄林堂

とでているが、安永版・延享版『難波丸綱目』には掲載されていない。しかし天和二年より相統したとあることから、近世前期には筆墨の仕事に係わっていた可能性はある。

文化十三年十一月の出来事に墨屋儀助の親類筋にあたる者に「墨屋和平」の名前を貸し、得意先を分けて筆墨商売をしてきた。この墨屋和平は安永元年五月に北堀江三丁目佐川屋重兵衛支配の借家を借受けて筆墨商売に励んでいたが、町内にも実名を使用せず、借り名前の「墨屋和平」を使用していた。この為、墨屋和平に改めた件は勝手な振舞いで許すことはできないと墨屋儀助・墨屋宗助・墨屋寿助等が墨屋和平を相手に町役人衆中に異議を申し込んだ事件があった。

別に、天保七年八月以前に京都の筆細工人勝守陸奥より紛しい筆が売出された件についての調査依頼があり、墨屋儀助は勝守筆を販売していたが、印鑑銘印紙等を改ため、そして、差支えのある筆毛を調べたが問題はなかったと勝守陸奥に報告をしている。

しかし、天保七年九月には勝守筆と紛らわしい筆を墨屋和平が売出した事が判明し、この件につき勝守陸奥に謝罪し、内済したと思っていたが先方は内済とは考えていなかった。後日、勝守陸奥が立腹していることに気付いたが、その時点では墨屋儀助は非常に後悔しており、内済が進展していない事に難渋している旨を叶露している。

この結末は、本家墨屋儀助は町内にお詫を仲介してもらい、金子五両と版木を差出し、勝守名の紙を買受けて、これを売捌くことで内済を承知してもらい落着した。

更に、天保七年九月十八日付で勝守陸奥正雄より墨屋儀助宛の書状には墨屋儀助の心底を察して版木三ツと託状一通を預かる旨の書状を認めた。墨屋儀助は筆屋商売をしているが一般以外にも販路があった事は次の文書にもよく表れており

元治元年三月には禁裏御寺、泉涌寺別院、雲龍院役所 墨の調進御用被仰付 とある。  
京都の筆細工人勝守陸奥の筆販売許可に値する印鑑を呈示する。

#### 印鑑

御本丸御用御筆細工人

勝守陸奥

勝守筆売扱所

大阪新町西口井戸ノ辻

石上儀助

天保七申年八月改

増井家文書目録解題

増井忠次郎の老家である榎屋利兵衛は長堀茂左衛門町に住み質屋を営業していた。(嘉永四年三月「大阪南組質屋申合人別帳」によると、長堀茂左衛門町増屋利兵衛とある。)増井忠次郎はここで働き、天保十二年十月十日生まれで元治二年三月に御本家より道具類を受取っている。二十六才の時であった。住所は大阪市南区空堀町二十二番、同二十三番で、(大阪地籍地図)において確認することができる。

増井忠次郎は大阪の空堀で質屋を営業し、明治三十年三月二十二日、大阪府南警察署長宛に(古物商営業願)を提出し、同年四月十三日に許可されている。(現在でも質屋・古書籍・古物商の営業を望むものは所轄の警察において風俗係に古物商関係の申請書類を提出するのは現在でも同じである。)

吉野屋文書目録解題

天保八年に刊行された『仁風便覧』には

北久宝寺町三丁目 吉野屋善兵衛

とある。文政七年刊『商人買物獨案内』に左記の記録が残っている。

舎萬漆所 北久宝寺町三丁目

吉野屋善兵衛

吉野屋の文書構成から見ると、木綿・漆・家質を主な業務形態とし、既に近世中期には仕事をしていたと思はれる。家質についても明治三十五年の「貸附日家恵」の帳面を最初に次の規則が掲載されている。

明治三十拾五歳一月 吉野 貸附日家恵

永代禁止規則

一家質貳番抵当貸附禁ス

但シ壹番抵当貸附有之分不苦事

一未丁年後見附ス抵当貸附禁ス

一地所無之建家抵当貸附禁ス

一遠方ヲ持家之抵当貸附禁ス

一信用貸附金額高金貳百円迄ニ限ル

但シ可成丈抵当書入ル事

一諸株券一切買求所持禁ス

但シ鉄道株ハ一切堅無用

一所株之社債券一切所持禁ス

但シ鉄道株ハ一切無用

一諸株主并ニ役員等一切致事ヲ禁ス

一諸相場致事一切禁ス

一諸人并ニ保證人判事一切禁ス

右之通一切禁ス此規則書貸附帳面ニ毎歳新帳表江此通可写也

六代目 善右衛門

帳面に申し送り書きの通り、家質にしろ、抵当にしろ、事業に失敗しないように厳重な規則になっている。

最後の六代目善右衛門から推測すると、近世中期には初代が存在したとしてもおかしくはない。ここでは木綿と漆については述べないが家質・書入・家賃について若干触れてみる。

家質（かじち）

家質については『法制史論集第二巻』所収、徳川時代の不動産担保法、（大正七年）中田薫が早く、次いで「虎屋時報No.三〇〇No.六号」大坂昔時の不動産金融上・中・下（昭和五年九月〜十一月）佐古慶三、「国家学会雑誌第七十三卷第三号」家質の研究（昭三十四年十月）石井良助、「歴史読本」明和の大坂家質騒動（昭和五十一年七月）佐古慶三等の主な研究がある。

石井良助は「家質の研究」において、大阪の家質と江戸の家質の比較と変遷、違いを展開した。佐古慶三の「大坂昔時の不動産金融」も同様の系譜を示し、兩人共に大阪の家質・江戸の家質共に基本的な事実を合致しているが、ただ一ヶ所見解が異なっている。大阪の家質については佐古慶三の考えは「書入」だといひ、石井良助は家質と書入と区別されていると主張する。

「虎屋時報」大坂昔時の不動産金融中から引用

大坂では単純なる書入れに過ぎぬ。よって借主は質物たる家作の所有を継続している。書入れたるはただ借銀の担保としてだ故に利銀の約束があり、納租の義務がある。

大阪においても、家質の設定には、年寄（町役人）五人組の連判を要したのであって、この点が家質をしてたんなる書入と区別せしめた所以であろう。（中略）

家屋敷土蔵納屋等引当、金銀借家候證文<sup>モ</sup>えも家質奥印差配所より致奥印候儀<sup>ニ</sup>候間、若書入證文は格別之儀と心得違、奥印不受者も有えは、早々右差配所へ證文持参、奥印受可申候

とあって、家質と書入（引当）とを区別している。両者の手続上の区別は、前者には五人組、年寄の加判を要し、かつ家質割印帳に割印されたのに、後者はそうでなかったという点にあるものと思われるのである。

佐古慶三の考え方は『法制史論集』の影響を受けて、家質そのものは中田薫に近い。  
大阪の家質を例にとつて説明する。

家質証文（嘉永元年八月）

具足屋与三吉は家質置主として、銀七貫目の家質にし、一ヶ月の利銀は三十五匁宛返済することになっている。家作（家作は土地が付いているのが自然である、概ね、家質に家作が入る場合は土地があるのが前提になっている。）を質物にして、家作の所有も引き続き継続することになるから、公租の義務も残り、納租しなければならない。家質の連帯保証は利銀の返済が滞納した場合は請負人が弁済することになっている。勿論、元銀が返済できない時は帳切にすればよいのである。

五人組の連判が必要なのは連帯責任の重さを銀借主に与える為、銀借主が勝手に金を借りることができないように町会所へ銀借主の住所、借銀高を届けて承諾を求める。

南米屋町丁中追式目一 家質銀の事

一、銘々依要用家屋舗家質に指入、銀子借用致候節、其銀主の町名并商売柄等に至迄委細年寄之申届ケ、年寄承知の上借請可申候、萬一返済相滞、家屋敷流込候節、丁中嫌候躰なる仁歟、又者迷惑に存候仁も可有之儀に候得は、借請候節得と相糺吟味可仕候事

右の町式目の一条にも町年寄、五人組の立合を求め、銀主に家質証文を交付し、銀子を受取る、そして、この家質証文にも銀主の他に町年寄、五人組の連判が必要になる。

江戸の家質について、借主は質物を借銀のかたに売渡す。一定の質入期間が到来して、返銀すれば証文を買戻すことができる。そして、家質になった家作を占有しているのは家守である。だから、地代と家賃を支払わなければならず、銀主には売渡証文と家守請状を出し、

名主には沽券状を寄託することになる。

### 書入

大阪の家質は書入だと言ったのは佐古慶三であるが、石井良助は家質と書入の区別がなされていなかった。中田薫は『法制史論集第二巻』で書入について記している。

一 徳川時代に不動産の書入と称するものは、目的物の占有を書入人に留保する不動産の担保にして、中世の見質（差質）に相当するものなり。（中略）債権者のために債務不履行の場合に於て、弁済に代へて書入不動産の所有権を、自己に帰属せしむの権利を生ず。即ち科條類典第卅七條伺の懸紙に『書入之儀ハ、定之通金子返済不致候ハ、地所屋敷等可相渡由之證文ニ而、其地面屋敷等先エ渡置候筋ニ無御座』

右の記録を一読していただければ大阪の家質が書入であった事に異論はない筈。ついでに中田薫は書入については四種ほどある旨述べているが、そのなかの第三種を紹介しよう。



三 書入の第三種は債権者のために、債務不履行の場合に於て、書入不動産を売却して、其代金を以て債務の弁済に、充当せしむるの権利を生ずるものとす。

明治八年に出版された『神皇日用諸證文 全』は右の第三種の書入のことを良く伝えているので引用しておく。

地所建家書入之証

一金何百何拾圓也 一ヶ月利子何程

此引当

空地 沓ヶ所 反別何反何畝何歩

居宅 沓軒 表口何間裏行何間

土蔵 沓軒 堅何間横何間

右者今般何々ニ付礎ニ借用致候處実正也来ル何年何月何日限元利返却可致候萬一淹滞候節ハ右家屋敷糶売致シ速ニ償却可致候尚不足候ハ、請人ヨリ相弁可申候為後証仍而如件

年号月日 借主 何之誰

請人 何之誰

何之誰殿

前書之趣相違無之候也

戸長 何之誰

大阪では一般的に借家が多かった、この要因は地割にあり、入口近くに建物所有者が住み、半間の路次をとって、奥へ家を建て、それを借家にした。別に家賃にこだわる必要もないが、西鶴によると借家の出入りが面倒であるから金を貸して家賃にとれば、利銀は家賃として入るし、元銀は保証されているから金持ちの家賃をとることになる。大阪の借家の方法は借家請状を差し入れる。これは借主と貸主の約束を文書にしてある。

文政十三年閏三月に、借主、中嶋屋吉兵衛は受人、八幡屋幸助にたのみ、貸主、炭屋請蔵宛に提出した借家証文帳から内容を拾ってゆくと、決定事項は「宗旨の事」〈幕府の法を守る事〉〈家主との取り決めを守る事〉〈家賃は毎月遅滞なく入れる事〉などで、勿論、返済できない時は受人の八幡屋幸助が弁済することになる。

現在でも住宅を借りる場合は概ね右の事情と合致するが、昔時と変わっている点がある。建具等は住宅に付いている物と考えるがこの時代は違っていて、表の戸、かも居、畳等は独立した物と考えられていて、住宅を借りた場合、必ず付いているとは限らず、借家により、これらの付属品の内容が変わってくる。

借家の家賃支払方法について『徳川時代の文字に見えたる私法』中田薫は説明している。参考のため引用する。

借家人は借屋賃（宿代、宿賃）を支払うを普通とす。この家賃は通常半季払もしくは月払なれども、時に日払なることもあり。作者不詳「商人職人懐日記（正徳三年）巻五、其一に、

「鉢坊主放下仕油屋のふせがい、門々めくる行人など、髓そふなるを家請手形に借主として、四畳半に三人四人相住居……朝出れば晩の戻りの請あはれぬ衆なれば家賃其日払ひと極め、一人まへに銭式文宛、路次口に家主庄机して外へ出しなに請取」

唯楽軒作「立身大福帳」（元禄十六年）巻三（棒一本で立身の久三の段）に、

「宿賃の下直なる方を才覚して、聚楽町の裏かしやに三畳じぎにて一ヶ月九分、然も毎日三厘づ、なしくづしの家賃にて、雨露にぬれず」

などあるが如し。

この二作品が現実から拾い上げたものか本人の創作であるかはここでは問はない。ここで問題にしたいのは借家に住む人達と支払方法が日払であることが重要である。四疊半に三〜四人泊めるは木賃宿にみえるが、実情はぐれ宿とみてよい。鉢坊主、放下、門々めくる行人等に安定した収入があるわけではないから、家主が外出（外出時に集金しないと、集金できる保証がないからで、これらの人々はその日の家賃を支払うために、例えば身のまわりの品物を質屋に入れ、金を工面して、宿賃として支払い、その日に稼いだお金で質物を出すのを常とする）しようとする人達からその日の家賃を取っているのである。

大阪長町の帯屋喜兵衛の文書には〈毎日人別帳〉として毎日・毎日・宿泊する人名と宿賃が記されている。この文書は不安定な収入しかない人達に貸している〈ぐれ宿〉の状態と酷似している。

#### 京都御役所御用筆墨勝守陸奥文書目録解題

筆と墨は古来より使用されてきた。しかし、その沿革は不明な部分が多く詳らかにできない。

明治二十八年二月に第四回内国勸業博覧会出品解説書之下書に従がえば、人皇十八代（人皇十八代は写し間違いで十七代）履仲天皇の御代に創業し、大和国に住み、その後、延暦年間（七八二〜八〇五）に京都へ移り住み、現在まで相続して勝守製筆を伝習するとある。勝守陸奥の動向を刊本類でいくつかは確認することができるので左に紹介する。

#### 新修京都叢書所収

京羽二重巻六 貞享二年（一六八五）

墨所 室町通二條下町 陸奥大椽

京羽二重（宝永版） 宝永（一七〇四〜一七一〇）

墨所 室町通二條下町 陸奥大椽

萬買物調方記より

萬買物調方記 元禄五歳三月(一六九二)

室町二条下 陸奥大椽

京にて筆師は二十八名を数えるが勝守陸奥の名はなく、油煙墨屋のなかに勝守陸奥の名前があった。

右の史料から貞享二年(一六八五)元禄五年(一六九二)宝永年間(一七〇四—一七一〇)にかけて墨の取り扱い者としての名前はあがるが、この時代の筆製作者としての名前を見つけない。

筆ができあがるまでの原材料の調達ならびに流通は次の文書から概ね様子を伺うことができる。

「京大坂取調方一件覚」天保七年五月より要約すると

鹿毛を取扱かう場合は、諸国より毛附荒皮のまま大阪表の濱の問屋と役人村へ積み登り、そこから塩町式丁目の白革師達が買い求める。右の〈毛〉だけを筆毛師達が買入れ、筆毛に製してこれを売出す。

上毛と云われ、嶋毛ともいわれる馬毛の取扱かいの場合は、諸国より毛附荒皮のまま大阪表の濱の問屋・役人村へ積登らせ、摂津国川辺郡火打村にて買入れ、筆毛にして売出していた。

大阪の場合は右のような事情だが京都では〈毛品〉を取扱かう筆毛師はいなかったので筆墨問屋へ頼んでいた。それでは毛附荒皮の値段は何程であったのだろうか。

天保二年四月

御用御筆毛附鹿荒皮六拾七枚

此代金貳拾壹兩三步也

但六兩者毛代

拾五兩三分者皮代之積

この史料を元にすると金一兩で毛の枚数は六・七枚に相当する。因みに天保二年四月の米一石は銀八匁五分として、一枚あたり銀一匁二分六厘、この値を他の物価と比較すると、大工の手間賃（京都）は銀二匁九分、お酒一升（京都）銀一匁三分七厘、一匁四分一厘となり、毛もそれほど安くはなかった。

白革師の名前を書上げてみる。文政七年二月

塩町式丁目

播磨屋新左衛門

小林屋伊八

小林屋仁助

小林屋和助

大和屋弥右衛門

石川屋安兵衛

河内屋源兵衛

小山屋興兵衛

石川屋卯右衛門

石川屋利助

小林屋仁兵衛

石川屋半兵衛

河内屋惣七

播磨屋次助

安土町三丁目

九之助町壱丁目

小林屋新兵衛

八幡屋源右衛門

白革師は三十六人もいた。

天保二年四月

塩町貳丁目 石川屋卯七衛門 石川屋安兵衛

河内屋源兵衛 小林屋伊八 播磨屋新左衛門

小林屋和助 大和屋弥三郎 小林屋仁兵衛

小山屋与兵衛 河内屋惣七 大和屋弥右衛門

播磨屋治助 安土町三丁目 小林屋新兵衛

勝守筆について問題も多く発生している。従来は御用御筆毛撰びで不良品を取扱わない規定があり、大阪においても筆毛師井川辺郡火打村にて取扱いの品以外は使用しない事が慣例になっているにも係わらず、〈毛品〉は諸国より直接売込みにくる。更にこれらの業者が多く、問屋だけでは取締りもできず、御用御筆毛になるような品があっても、われわれの方に持参せず勝手に〈勝守筆〉と云って、紛らわしい筆を販売する者もいる。

また別に、近年〈勝守筆〉と唱え、勝守陸奥方にて調進したのと同様の筆を作り、勝守の名印札をつけて売出している業者がある。これらの業者が製筆に使用した毛品は勝守の調進と違う筆を作り、勝守の名印の札を付けて〈勝守筆〉として取扱かっている筆師共が多数いて名前がわからない。

これらの問題が天保二年十一月に御筆細工人、勝守陸奥より御奉行様へ「乍恐奉願上候口上書」にて出されている。

参考文献

解題を書くのに主に次の史料を参考にした。

仁風便覧・商人買物獨案内・商工技芸浪華の魁・法制史論集（中田薫）・虎屋時報No.三十一No.六四号大坂昔時の不動産金融（佐古慶三）・国家学会雑誌七十三卷第三号家質の研究（石井良助）・新修京都叢書

平成八年三月